

2020 年度 授業評価アンケート

1. 授業評価アンケート(学部)

1-1. アンケート概要とアンケート実施率

2020 年度に実施した授業評価アンケートに基づき、授業評価の結果とその分析をまとめたものである。アンケートは第1クォーター(6月 19 日～7月 31 日)、前学期および第2クォーター(7月6日～7月 31 日)、後学期および第3・4クォーター(11月 30 日～12月 11 日)に、学部の開講授業を対象に実施された。

【実施率】

以下は学部・教員別の授業評価アンケートの実施率である

〈学部・教員別〉

所属学部※1	実施 件数	依頼 件数	実施率 ※2	構成比 ／全学	専任／ 非専任別	実施 件数	依頼 件数	実施率※ 2	構成比 ／全学
経済学部	314	462	68.0%	19.6%	専任	183	303	60.4%	12.8%
					非専任	131	159	82.4%	6.7%
人文学部	1,106	1,545	71.6%	65.5%	専任	397	591	67.2%	25.0%
					非専任	709	954	74.3%	40.4%
社会学部	214	353	60.6%	15.0%	専任	118	215	54.9%	9.1%
					非専任	96	138	69.6%	5.8%
合計 (全学)	1,634	2,360	69.2%	100.0%	専任	698	1,109	62.9%	47.0%
					非専任	936	1,251	74.8%	53.0%

※1 科目分類は、授業の種別により分類した。

※2 実施率は、実施件数／依頼件数とした。

〈科目分類・教員別〉

科目分類 ※1	実施 件数	依頼 件数	実施率 ※2	構成比 ／全学	専任／ 非専任別	実施 件数	依頼 件数	実施率 ※2	構成比 ／全学
演習	449	803	55.9%	34.0%	専任	328	626	52.4%	26.5%
					非専任	121	177	68.4%	7.5%
講義	565	700	80.7%	29.7%	専任	238	301	79.1%	12.8%
					非専任	327	399	82.0%	16.9%
実習・実技・ 実験	133	190	70.0%	8.1%	専任	32	47	68.1%	2.0%
					非専任	101	143	70.6%	6.1%
外国語	487	667	73.0%	28.3%	専任	100	135	74.1%	5.7%
					非専任	387	532	72.7%	22.5%
合計 (全学)	1,634	2,360	69.2%	100.0%	専任	698	1,109	62.9%	47.0%
					非専任	936	1,251	74.8%	53.0%

※1 科目分類は、授業の種別により分類した。

※2 実施率は、実施件数／依頼件数とした。

1-2. アンケート回答率

【回答率】

以下は授業評価アンケートの学部・教員別回答率および科目分類・教員別の回答率である。

〈学部・教員別〉

所属学部 ※1	依頼 件数	履修 者数	回答 者数	回答率 ※2	専任/ 非専任別	依頼 件数	履修 者数	回答 者数	回答率 ※2
経済学部	462	27,411	4,300	15.7%	専任	303	14,297	2,268	15.9%
					非専任	159	13,114	2,032	15.5%
人文学部	1,545	37,323	7,647	20.5%	専任	591	14,483	3,029	20.9%
					非専任	954	22,840	4,618	20.2%
社会学部	353	16,607	2,768	16.7%	専任	215	8,602	1,535	17.8%
					非専任	138	8,005	1,233	15.4%
合計 (全学)	2,360	81,341	14,715	18.1%	専任	1,109	37,382	6,832	18.3%
					非専任	1,251	43,959	7,883	17.9%

※1 所属学部は、担当教員の所属学科組織コードにより分類した。

※2 回答率は、回答者数／履修者数とした。

〈科目分類・教員別〉

科目分類 ※1	依頼 件数	履修 者数	回答 者数	回答率 ※2	専任/ 非専任別	依頼 件数	履修 者数	回答 者数	回答率 ※2
演習	803	10,617	1,841	17.3%	専任	626	7,924	1,258	15.9%
					非専任	177	2,693	583	21.6%
講義	700	57,665	10,020	17.4%	専任	301	26,721	4,938	18.5%
					非専任	399	30,944	5,082	16.4%
実習・実 技・実験	190	2,812	479	17.0%	専任	47	621	124	20.0%
					非専任	143	2,191	355	16.2%
外国語	667	10,247	2,375	23.2%	専任	135	2,116	512	24.2%
					非専任	532	8,131	1,863	22.9%
合計 (全学)	2,360	81,341	14,715	18.1%	専任	1,109	37,382	6,832	18.3%
					非専任	1,251	43,959	7,883	17.9%

※1 科目分類は、授業の種別により分類した。

※2 回答率は、回答者数／履修者数とした。

2020年度の回答率を学部別に見ると、人文学部が最も高く20.5%であり、社会学部(16.7%)、経済学部(15.7%)と続く。また、学部・教員別に見ても、専任教員・非専任教員共に人文学部が最も高い。

科目分類別では、外国語が23.2%と最も高い。科目分類・教員別で見ても、専任教員・非専任教員共に外国語が最も高い。また、演習のみ、非専任教員の方が専任教員よりも回答率が高い。

【授業ごとの回答率の分布】

以下は授業評価アンケートについて授業ごとに回答率(回答者数/履修者数)を算出し、学部・教員別の分布、科目分類・教員別の分布である。

〈学部・教員別〉

所属学部 ※1	20% 未満	20%~ 40%未 満	40%~ 60%未 満	60%~ 80%未 満	80% 以上	専任/ 非専任別	20% 未満	20%~ 40% 未満	40%~ 60% 未満	60%~ 80% 未満	80% 以上
経済学部	72.1%	15.6%	8.7%	2.8%	0.9%	専任	71.6%	16.2%	7.6%	3.6%	1.0%
						非専任	73.0%	14.5%	10.7%	1.3%	0.6%
人文学部	59.7%	23.0%	11.9%	4.7%	0.8%	専任	61.3%	21.7%	11.8%	3.9%	1.4%
						非専任	58.7%	23.8%	11.9%	5.1%	0.4%
社会学部	72.2%	15.0%	5.9%	4.0%	2.8%	専任	74.9%	12.6%	3.7%	4.7%	4.2%
						非専任	68.1%	18.8%	9.4%	2.9%	0.7%
合計 (全学)	64.0%	20.3%	10.4%	4.2%	1.1%	専任	66.7%	18.4%	9.1%	4.0%	1.8%
						非専任	61.6%	22.1%	11.5%	4.4%	0.5%

※1 所属学部は、担当教員の所属学科組織コードにより分類した。

〈科目分類・教員別〉

科目分類 ※1	20% 未満	20%~ 40%未 満	40%~ 60%未 満	60%~ 80%未 満	80% 以上	専任/ 非専任別	20% 未満	20%~ 40%未 満	40%~ 60% 未満	60%~ 80% 未満	80% 以上
演習	70.2%	15.1%	9.3%	3.5%	1.9%	専任	72.2%	14.5%	7.2%	3.8%	2.2%
						非専任	63.3%	16.9%	16.9%	2.3%	0.6%
講義	65.7%	23.9%	8.4%	1.4%	0.6%	専任	62.5%	26.2%	8.6%	2.0%	0.7%
						非専任	68.2%	22.1%	8.3%	1.0%	0.5%
実習・実 技・実験	58.9%	27.4%	10.5%	2.1%	1.1%	専任	57.4%	25.5%	12.8%	2.1%	2.1%
						非専任	59.4%	28.0%	9.8%	2.1%	0.7%
外国語	56.1%	21.0%	13.6%	8.5%	0.7%	専任	54.1%	16.3%	17.8%	9.6%	2.2%
						非専任	56.6%	22.2%	12.6%	8.3%	0.4%
合計 (全学)	64.0%	20.3%	10.4%	4.2%	1.1%	専任	66.7%	18.4%	9.1%	4.0%	1.8%
						非専任	61.6%	22.1%	11.5%	4.4%	0.5%

※1 科目分類は、授業の種別により分類した。

2020年度の授業ごとの回答率の分布を学部別に見ると、全ての学部において20%未満が最も多く、科目分類別に見ても同様の傾向が見られる

1-3. アンケート結果の考察

【I. 授業評価】

総合的にみた授業の満足度は全体的に高く、「強くそう思う」「そう思う」の回答が、総合科目・外国語科目・専門科目(全体)で8割前後となった。科目・授業形態別で比較すると、外国語科目と総合科目・専門科目の講義形式において「あまりそう思わない」「全くそう思わない」が僅かに高いが、最も数値の高い経済学部の講義形式でも14.5%に留まる。

授業内容に関する設問は、いずれの設問でも学部・科目に関わらず全体的に評価が高いため、引き続き学生の理解促進・興味喚起に繋がる授業が望まれる。

課題に関する設問では、「課題の量」に対して多いと感じている人が20～30%存在しているものの、「課題に対する指示」「課題の内容の分かりやすさ」に関しては高い評価が得られている。

一方で、「課題に対するフィードバック」は他の課題に関する設問と比べ「該当しない」の回答率が高い。該当者の回答を見ると、他設問と同様に一定以上の評価が得られている。

教員に関連する設問では、課題に関する設問と同様に、「問い合わせへの対応」「フィードバックを取り入れた」など、教員と学生間のコミュニケーションの設問において、「該当しない」の回答率がやや高いが、該当者の回答に限定すると、評価は高い。また、「教員の声の聞き取りやすさ」「話す速度」についても「該当しない」の回答率がやや高いものの、該当者からの評価は高い。

※

■ 授業内容に関する設問

- I-2. 教員から周知された授業内容や方法に沿って行われたか
- I-3. 授業内容を理解できた
- I-4. 授業内容に興味を持てた

■ 課題に関する設問

- I-5. 課題の量は適切だったか
- I-6. 課題に対する指示は分かりやすかったか
- I-7. 課題の内容は分かりやすかったか
- I-8. 課題に対するフィードバックは分かりやすかったか

■ 教員に関連する設問

- I-9. 教員は質問や問い合わせに対して適切に対応していたか
- I-10. 教員は学生からの質問やチャット等のフィードバックを取り入れながら授業を行っていたか
- I-11. 教員の話す声は聞き取りやすかったか
- I-12. 教員の話す速度は適切だったか

【II. 身についた知識・能力・態度】

科目・授業形態問わず、「主体的な学習態度」「学修の成果や学習態度を実社会で生涯をつうじて活用できる実践力」において、全体的に「強くそう思う」「まあそう思う」が高く、「授業内容が該当しない」回答率が低い。また、専門科目では「自身の専攻分野に関する十分な知識」が身についたと回答している人が多く、評価が高い。

一方で、「批判的なものの見方」は「主体的な学習態度」と比べ、「授業内容が該当しない」回答率が高く、「あまりそう思わない」「全くそう思わない」もやや高い。2設問共に、講義形式において他形式よりも高くなっており、改善可能性があると思われる。

また、「異文化理解」「グローバル視点」「外国語運用」という面では、「授業内容が該当しない」が半数以上となる。該当者の回答を見ると、「あまりそう思わない」「全くそう思わない」が10%前後だが、「外国語運用」における外国語科目は25%以上と他科目と比べやや高くなっている。

1-4. 集計結果

授業評価アンケートの集計結果を設問ごとに示す。分類は以下の通り。

- ・【総合科目】講義／演習／実習・実技・実験
- ・【外国語科目】実習
- ・【専門科目(全体)】講義／演習／実習
- ・【専門科目(経済学部)】講義／演習／実習
- ・【専門科目(人文学部)】講義／演習／実習
- ・【専門科目(社会学部)】講義／演習／実習

【I. 授業評価】

I-1. この授業を履修した理由は何ですか？

全体として「授業内容にひかれた」「必修だから」「時間割上都合がよかった」の回答が高い結果となった。学部・科目別でみると「必修だから」は外国語科目で特に高く90%以上となる。学部別での違いはそれほど大きくはないが、講義形式では「授業内容にひかれた」「時間割上都合が良かった」、演習形式では「必修だから」が比較的高い傾向が見られる。

I-2. 教員から周知された授業内容や方法に沿って行われたか

全体として「強くそう思う」「まあそう思う」の回答が高い結果となった。学部・科目別での違いはそれほど大きくはないが、演習形式において他形式と比べ「強くそう思う」が比較的高く50%前後となる。なお、「あまりそう思わない」「全くそう思わない」はいずれにおいても5%以下に留まる。

I-3. 授業内容を理解できた

全体として「強くそう思う」「まあそう思う」の回答が高い結果となった。学部・科目別での違いはそれほど大きくはないが、演習形式において他形式と比べ「強くそう思う」が比較的高い傾向が見られる。一方で、講義形式では他形式と比べ「あまりそう思わない」「全くそう思わない」が僅かに高く10%前後となる。

I-4. 授業内容に興味を持てた

全体として「強くそう思う」「まあそう思う」の回答が高い結果となった。学部・科目別での違いはそれほど大きくはないが、演習形式において他形式と比べ「強くそう思う」が比較的高い傾向が見られる。一方で、外国語科目、講義形式では他形式と比べ「あまりそう思わない」「全くそう思わない」が僅かに高く10%前後となる。

I-5. 課題の量は適切だったか

全体として「適切である」の回答が最も高く、「やや多い」「とても多い」が続く結果となった。学部・科目別での違いはそれほど大きくはないが、外国語科目、実習形式では他形式と比べ「適切である」が僅かに高く70%を超える。

I-6. 課題に対する指示は分かりやすかったか

全体として「強くそう思う」「まあそう思う」の回答が高い結果となった。学部・科目別での違いはそれほど大きくはないが、総合科目・経済学部の演習形式において「強くそう思う」が比較的高く40%を超える。一方で、経済学部の講義形式では他形式と比べ「あまりそう思わない」「全くそう思わない」が僅かに高く10%以上である。

I-7. 課題の内容は分かりやすかったか

全体として「強くそう思う」「まあそう思う」の回答が高い結果となった。学部・科目別での違いはそれほど大きくないが、総合科目の演習形式、実習・実技・実験形式において「強くそう思う」が比較的高く40%を超える。一方で、総合科目、経済学部、社会学部では講義形式において「あまりそう思わない」「全くそう思わない」が他形式と比べ僅かに高い。

I-8. 課題に対するフィードバックは分かりやすかったか

全体として「強くそう思う」「まあそう思う」の回答が高い結果となった。総合科目の実習・実技・実験形式では、「該当しない」が30%程度と他科目と比べやや高い。また、いずれの科目においても、演習形式では「強くそう思う」「まあそう思う」が他形式と比べ僅かに高い。

I-9. 教員は質問や問い合わせに対して適切に対応していたか

全体として「強くそう思う」「まあそう思う」の回答が高い結果となった。総合科目の実習・実技・実験形式では、「該当しない」が30%程度と他科目と比べやや高い。また、総合科目、専門科目において、演習形式では「強くそう思う」が他形式と比べ50%以上と高い。

I-10. 教員は学生からの質問やチャット等のフィードバックを取り入れながら授業を行っていたか

全体として「強くそう思う」「まあそう思う」の回答が高い結果となった。総合科目の実習・実技・実験形式では、「該当しない」が45%程度と他科目と比べやや高い。また、総合科目、専門科目において、演習形式では「強くそう思う」が他形式と比べ40%以上と高い。一方で、経済学部の講義形式では、「全くそう思わない」が7%と他と比べ高い。

I-11. 教員の話す声は聞き取りやすかったか

全体として「強くそう思う」「まあそう思う」の回答が高い結果となった。総合科目、経済学部、人文学部の講義形式では、「該当しない」が20%以上とやや高い。また、総合科目、専門科目において、演習形式では「強くそう思う」が講義形式と比べ高い。

I-12. 教員の話す速度は適切だったか

全体として「適切である」の回答が最も高い結果となった。総合科目、専門科目いずれも、講義形式における「該当しない」回答率が演習科目と比べ高く、特に経済学部、人文学部で30%を超える。また、いずれにおいても「やや遅い」「とても遅い」より、「とても速い」「やや速い」が僅かに高い。

I-13. 総合的にみて、この授業は満足できたか

全体として「強くそう思う」「まあそう思う」の回答が高い結果となった。学部・科目別での違いはそれほど大きくないが、総合科目・専門科目の演習形式において「強くそう思う」が比較的高く40%を超える。また、総合科目、専門科目の講義形式においては、「あまりそう思わない」「全くそう思わない」が僅かに高い。

【Ⅱ. 身についた知識・能力・態度】

Ⅱ-1. グローバル市民として生きていくのに有益な幅広い教養が身についた

全体として「強くそう思う」「まあそう思う」の回答と、「授業内容が該当しない」という回答に分かれる結果となった。外国語科目、専門科目の実習形式において「強くそう思う」「まあそう思う」が比較的高く、総合科目の実習・実技・実験形式において「授業内容が該当しない」が特に高くなっている。また、総合科目、専門科目の講義形式、外国語科目において、他形式と比べ「あまりそう思わない」「全くそう思わない」が僅かに高い。

Ⅱ-2. 自身の専攻分野に関する十分な知識が身についた

総合科目、外国語科目と専門科目間の「強くそう思う」「まあそう思う」回答の差が大きい結果となった。総合科目においてはいずれの授業形態においても「授業内容が該当しない」が40%を超え、実習・実技・実験形式では70%以上と特に高い。専門科目では、「強くそう思う」「まあそう思う」がほぼ全ての授業形態で65%を超える。

Ⅱ-3. 主体的な学習態度が身についた

全体として「強くそう思う」「まあそう思う」の回答が高い結果となった。学部・科目別での違いはそれほど大きくないが、総合科目の演習形式、専門科目の演習・実習形式において「強くそう思う」が比較的高く30%前後となる。一方で、総合科目、専門科目の講義形式においては、「あまりそう思わない」「全くそう思わない」が20%前後と他形式と比べ高い。

Ⅱ-4. 批判的なものの見方が身についた

全体として「強くそう思う」「まあそう思う」の回答と、「授業内容が該当しない」という回答に分かれる結果となった。総合科目の演習形式、人文学部・社会学部の講義・演習形式では、「強くそう思う」「まあそう思う」が50%以上と高い。一方で、総合科目の実習・実技・実験形式、外国語科目、人文学部の実習形式において、「授業内容が該当しない」が50%以上となる。また、総合科目、専門科目の講義形式において、「あまりそう思わない」「全くそう思わない」が他形式と比べやや高い。

Ⅱ-5. 異文化を理解し多様な他者と協働して社会に貢献できる対話力が身についた

全体として「授業内容が該当しない」の回答が高い結果となった。総合科目の講義、実習・実技・実験形式、経済学部、社会学部の講義、演習形式では「授業内容が該当しない」が60%前後であり、特に総合科目の実習・実技・実験形式において90%と高くなっている。一方で、総合科目の演習形式、外国語科目、人文学部においては「強くそう思う」「まあそう思う」が40%以上となり他形式よりも高い。

Ⅱ-6. 異文化を理解し多様な他者と協働して社会に貢献できる共感が身についた

全体として「授業内容が該当しない」の回答が高い結果となった。総合科目、経済学部・社会学部の講義、演習形式では「授業内容が該当しない」が50%前後であり、特に総合科目の実習・実技・実験形式において90%と高くなっている。一方で、人文学部においては全ての授業形態で「強くそう思う」「まあそう思う」が50%以上となり他形式よりも高い。

Ⅱ-7. グローバルな視点で物事を考える力が身についた

全体として「授業内容が該当しない」の回答が高い結果となった。総合科目、経済学部・社会学部の講義、演習形式では「授業内容が該当しない」が50%前後であり、特に総合科目の実習・実技・実験形式において約90%と高くなっている。一方で、外国語科目、人文学部においては「強くそう思う」「まあそう思う」が50%以上となり他形式よりも高い。

Ⅱ-8. 十分な外国語運用能力が身についた

外国語科目、専門科目の実習形式と、総合科目、専門科目の講義・演習形式とで回答が分かれる結果となった。外国語科目と専門科目の実習形式では、「強くそう思う」「まあそう思う」が高く、70%を超える。一方で、総合科目、専門科目の講義・演習形式では「授業内容が該当しない」が60%を超える。また、外国語科目は「あまりそう思わない」「全くそう思わない」が20%以上となり、他形式よりも高い。

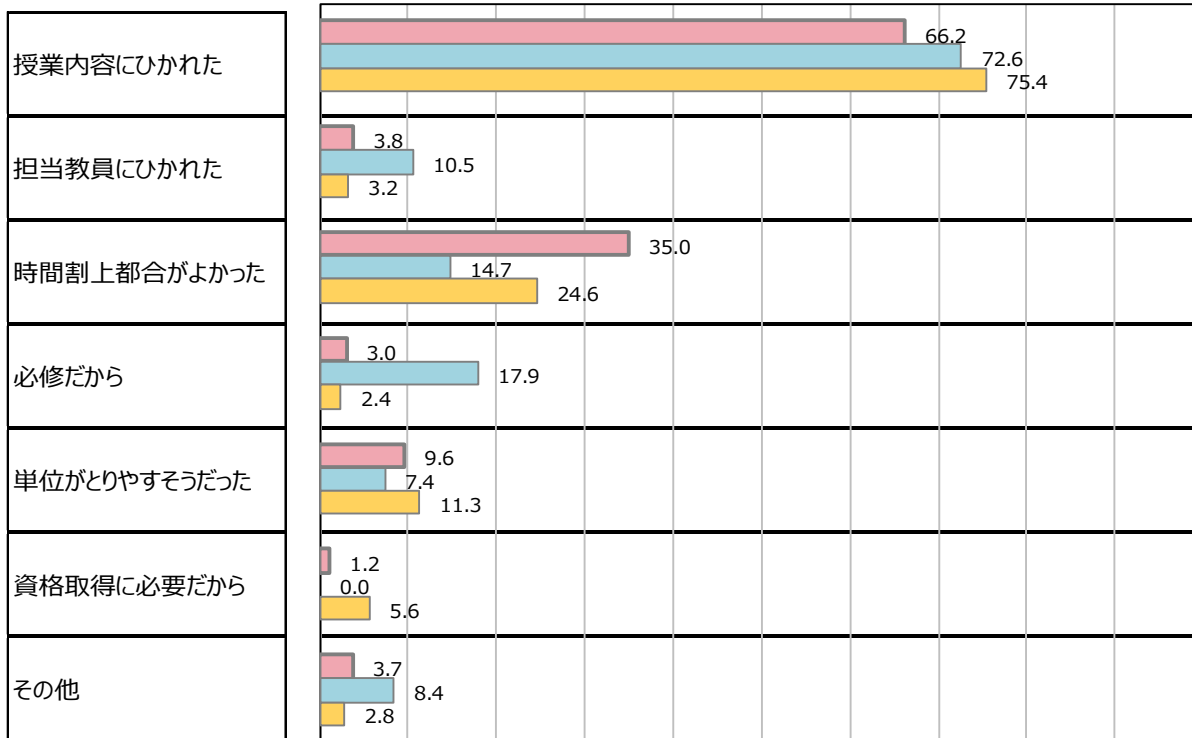
II-9. 学修の成果や学習態度を実社会で生涯をつうじて活用できる実践力が身についた

全体として「強くそう思う」「まあそう思う」の回答が高い結果となった。学部・科目別での違いはそれほど大きくないが、総合科目、経済学部の演習形式において「強くそう思う」が比較的高く30%以上となる。一方で、総合科目の講義形式、外国語科目、専門科目の講義形式において、「あまりそう思わない」「全くそう思わない」が他形式よりも僅かに高い。また、総合科目の実習・実技・実験形式では、「授業内容が該当しない」が約40%と他形式よりも高い。

I-1. この授業を履修した理由は何ですか？(複数回答可)

【総合科目】

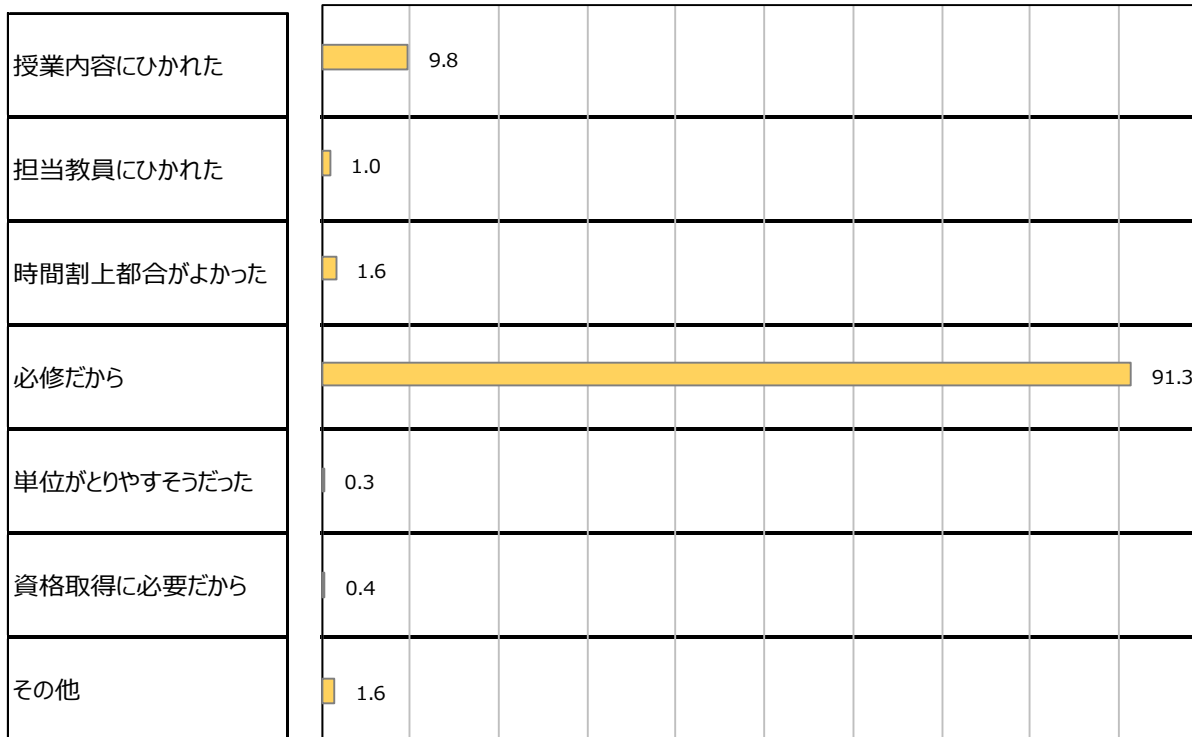
■ 講義(n=2,691) ■ 演習(n=95) ■ 実習・実技・実験(n=248)



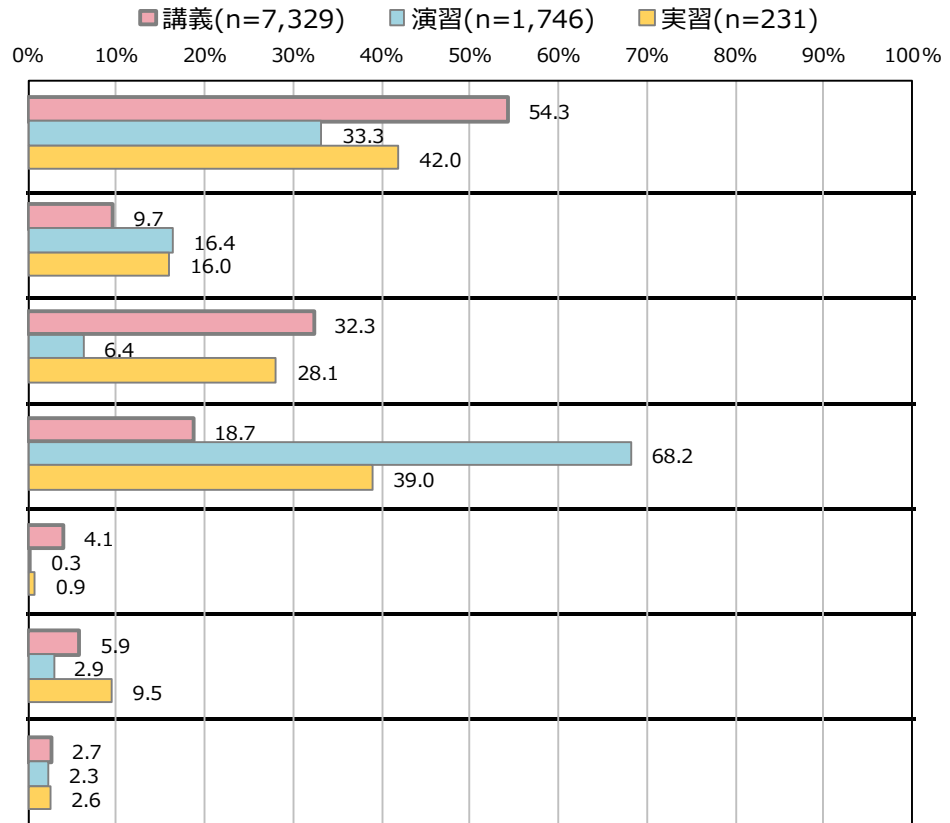
【外国語科目】

■ 実習(n=2,375)

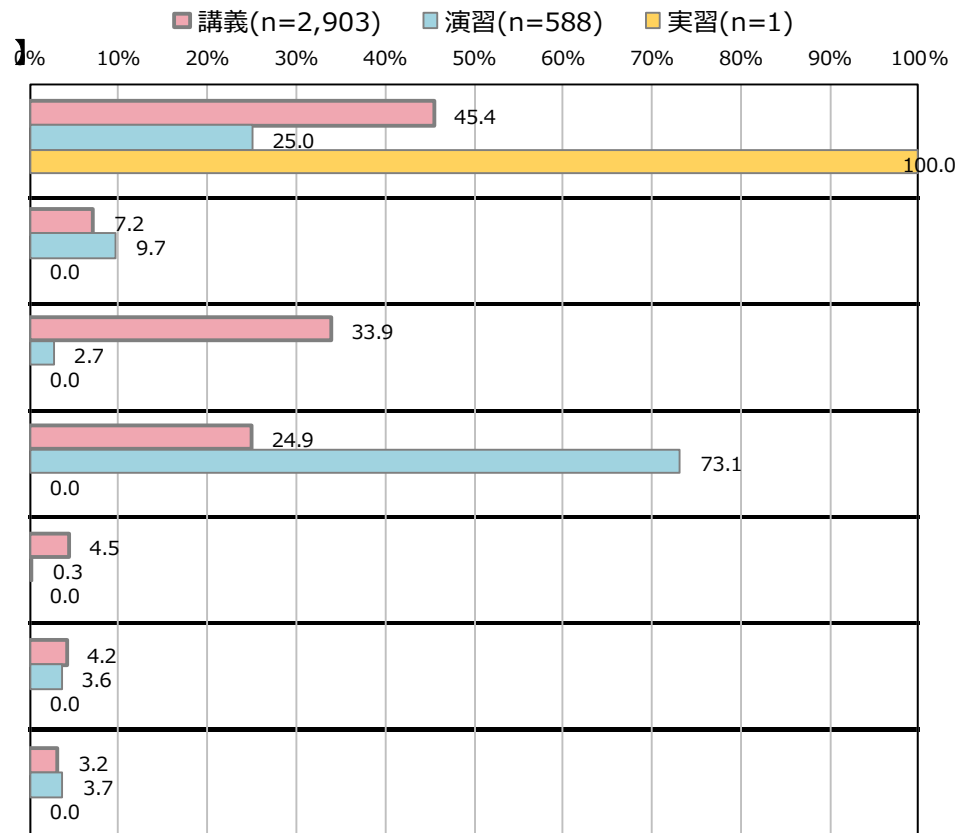
0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%

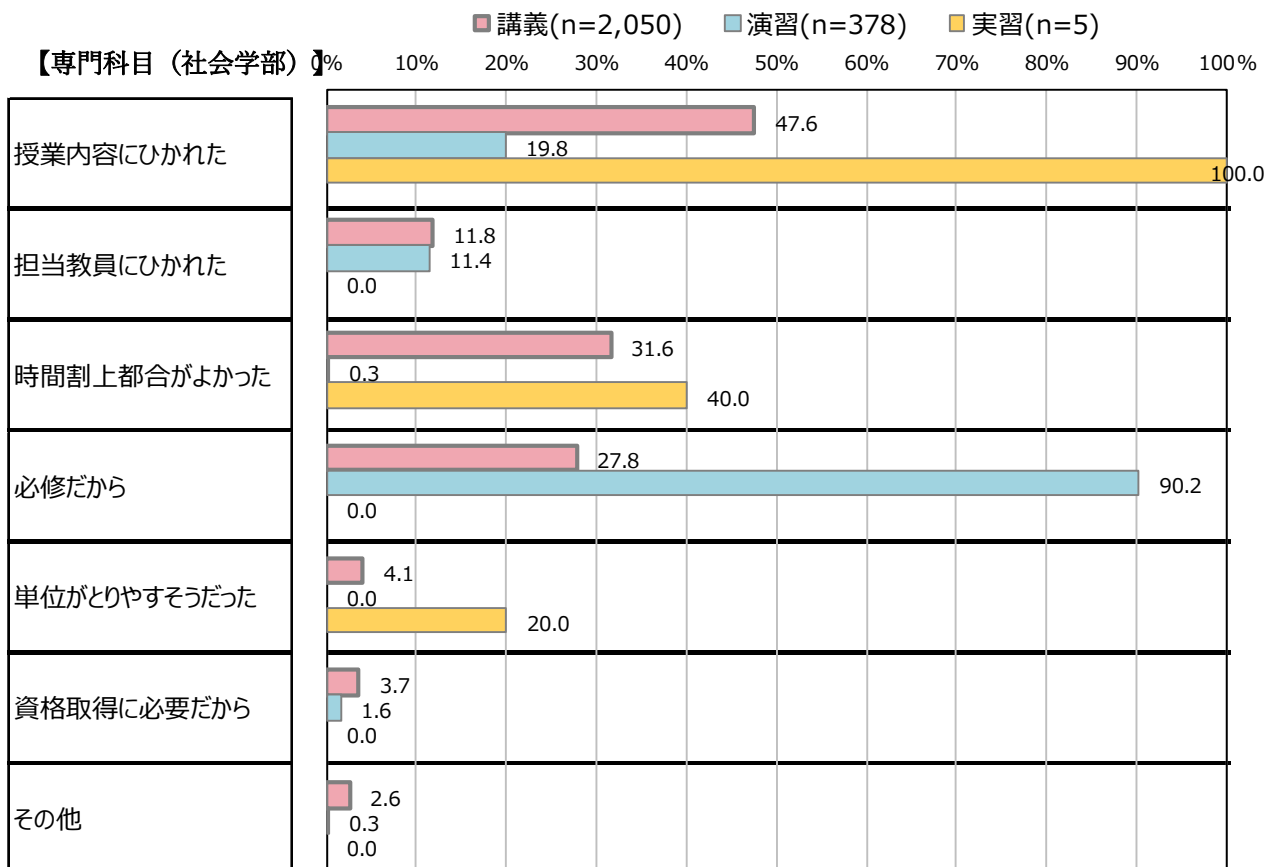
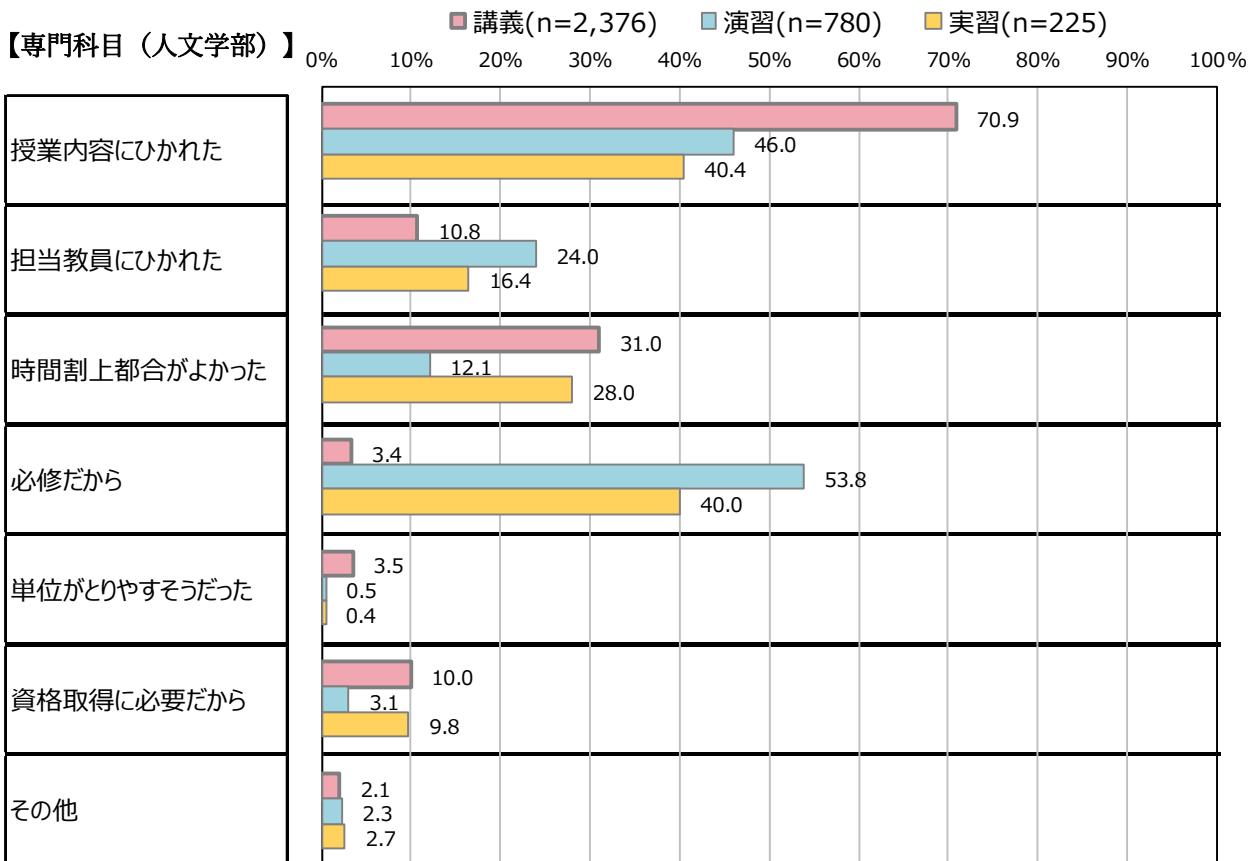


【専門科目（全体）】

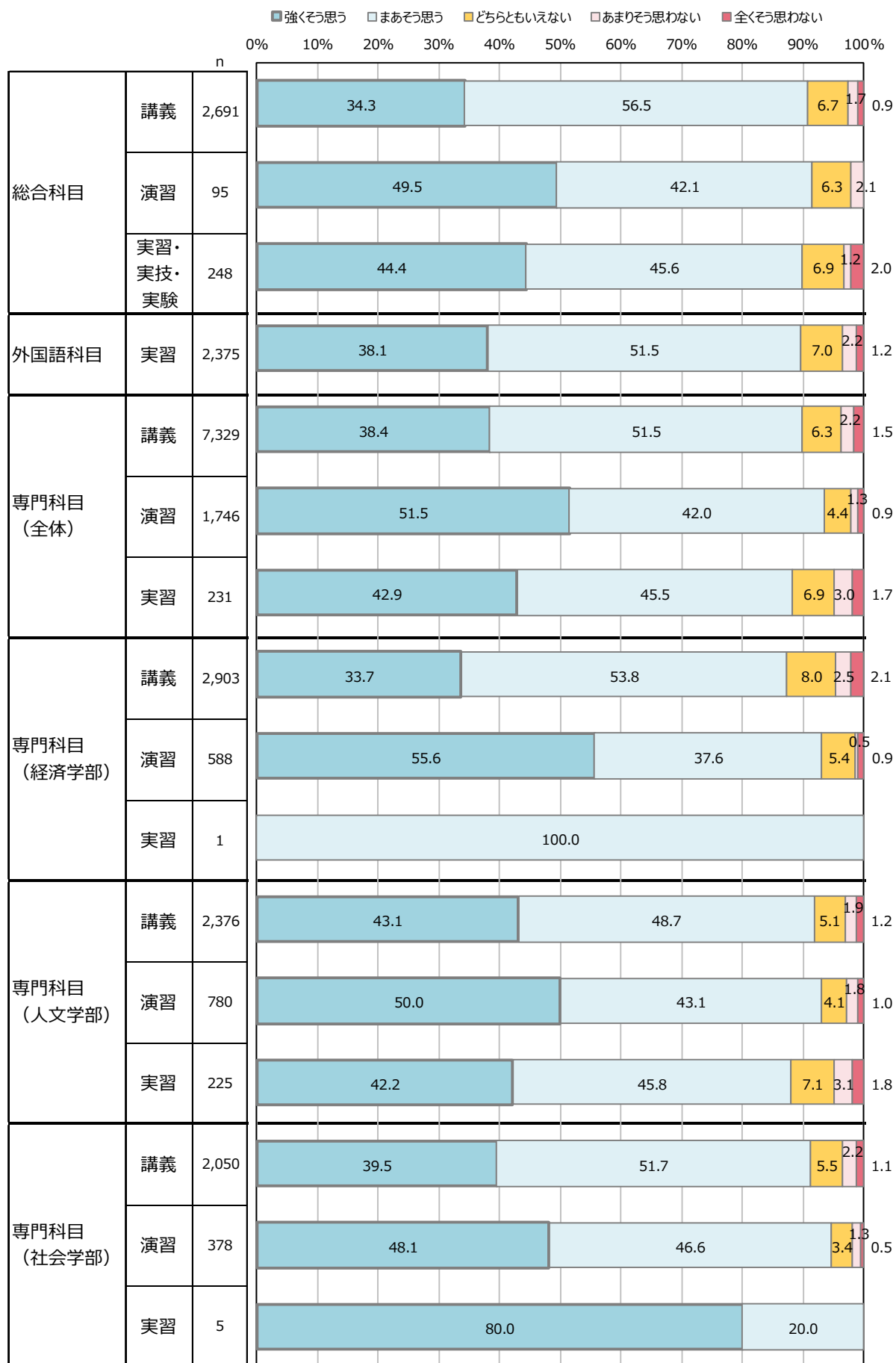


【専門科目（経済学部）】



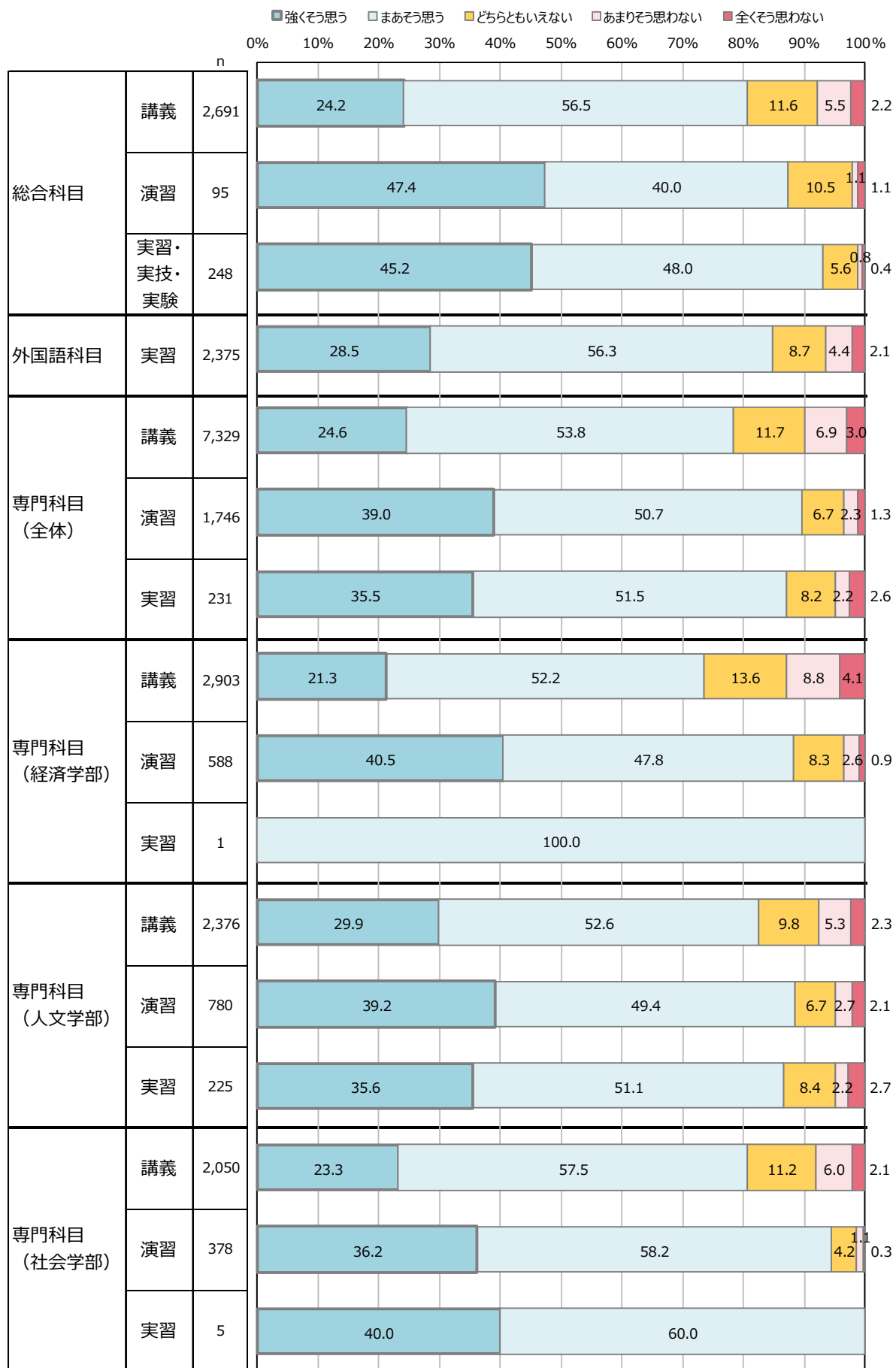


I-2. 教員から周知された授業内容や方法に沿って行われたか



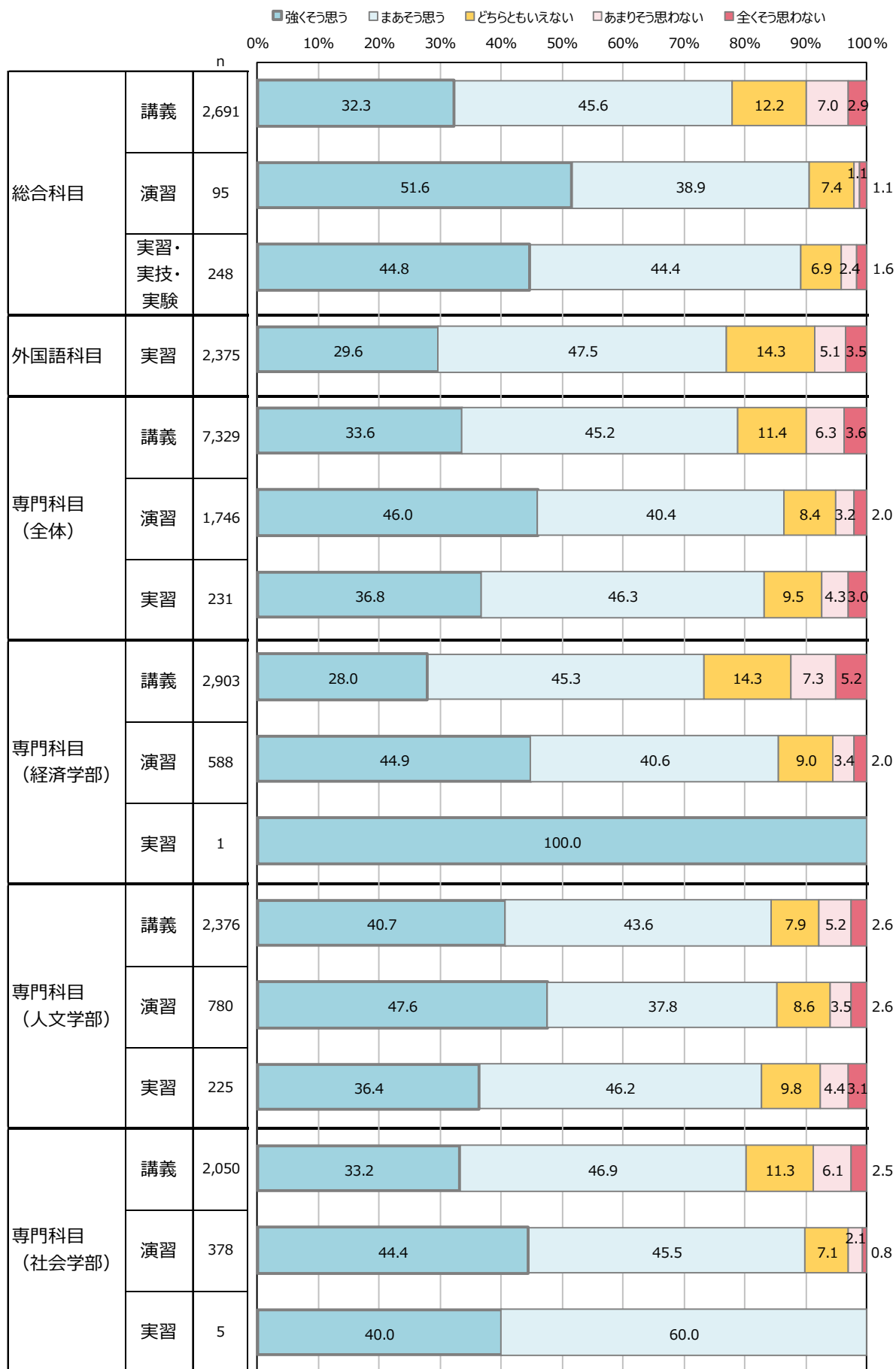
※0%は値ラベルの表示を省略

I-3. 授業内容を理解できた



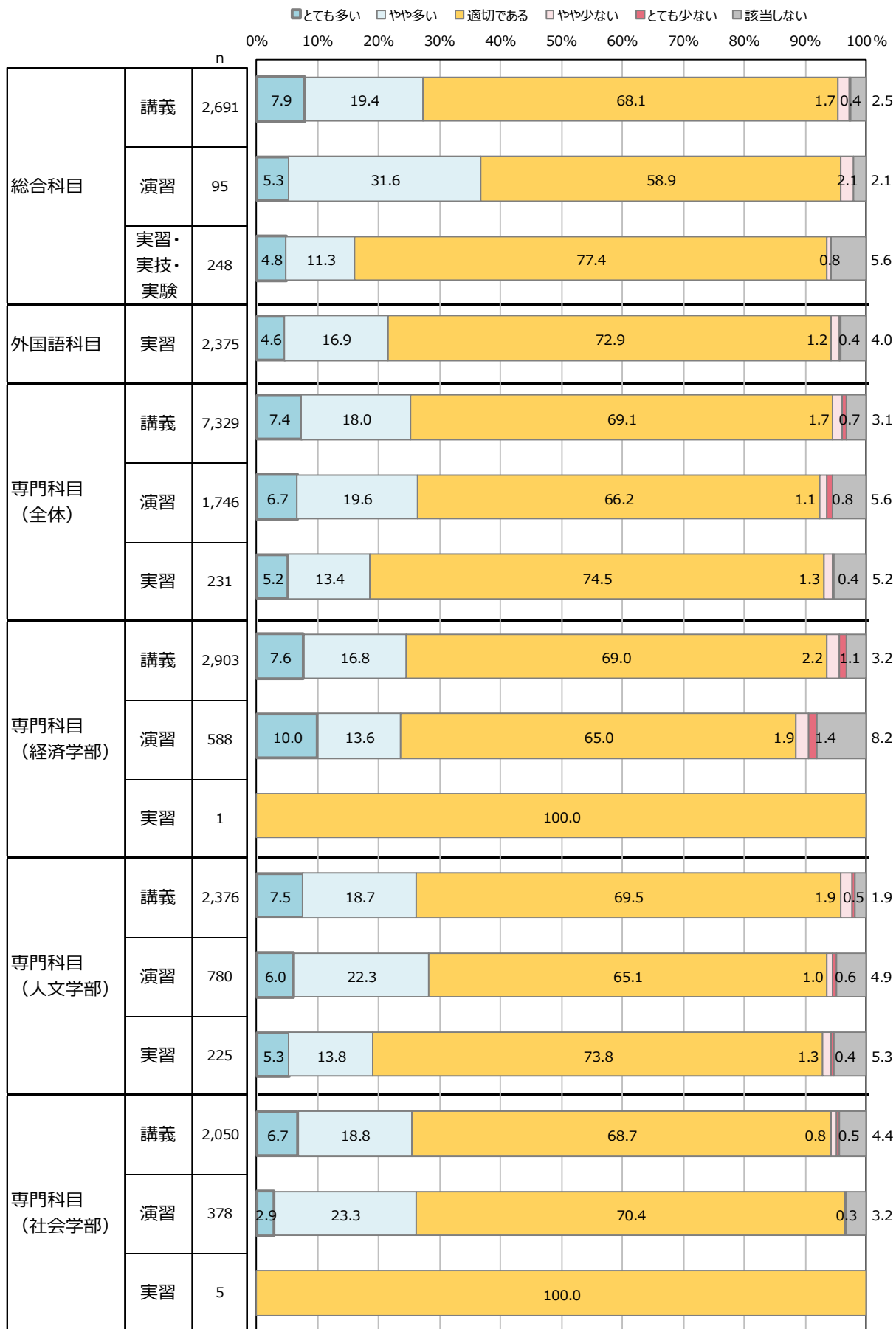
※0%は値ラベルの表示を省略

I-4. 授業内容に興味を持てた



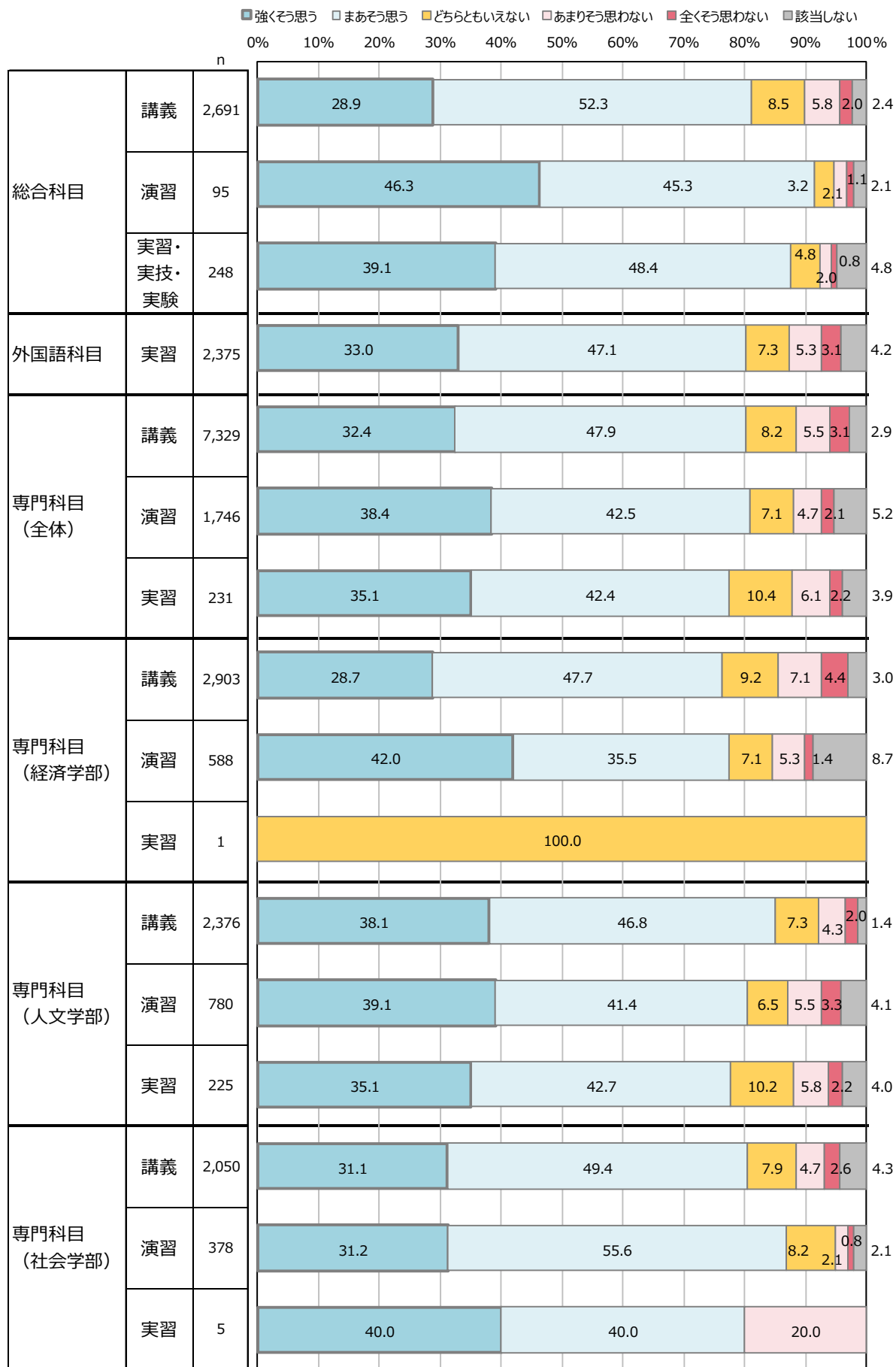
※0%は値ラベルの表示を省略

I-5. 課題の量は適切だったか



※0%は値ラベルの表示を省略

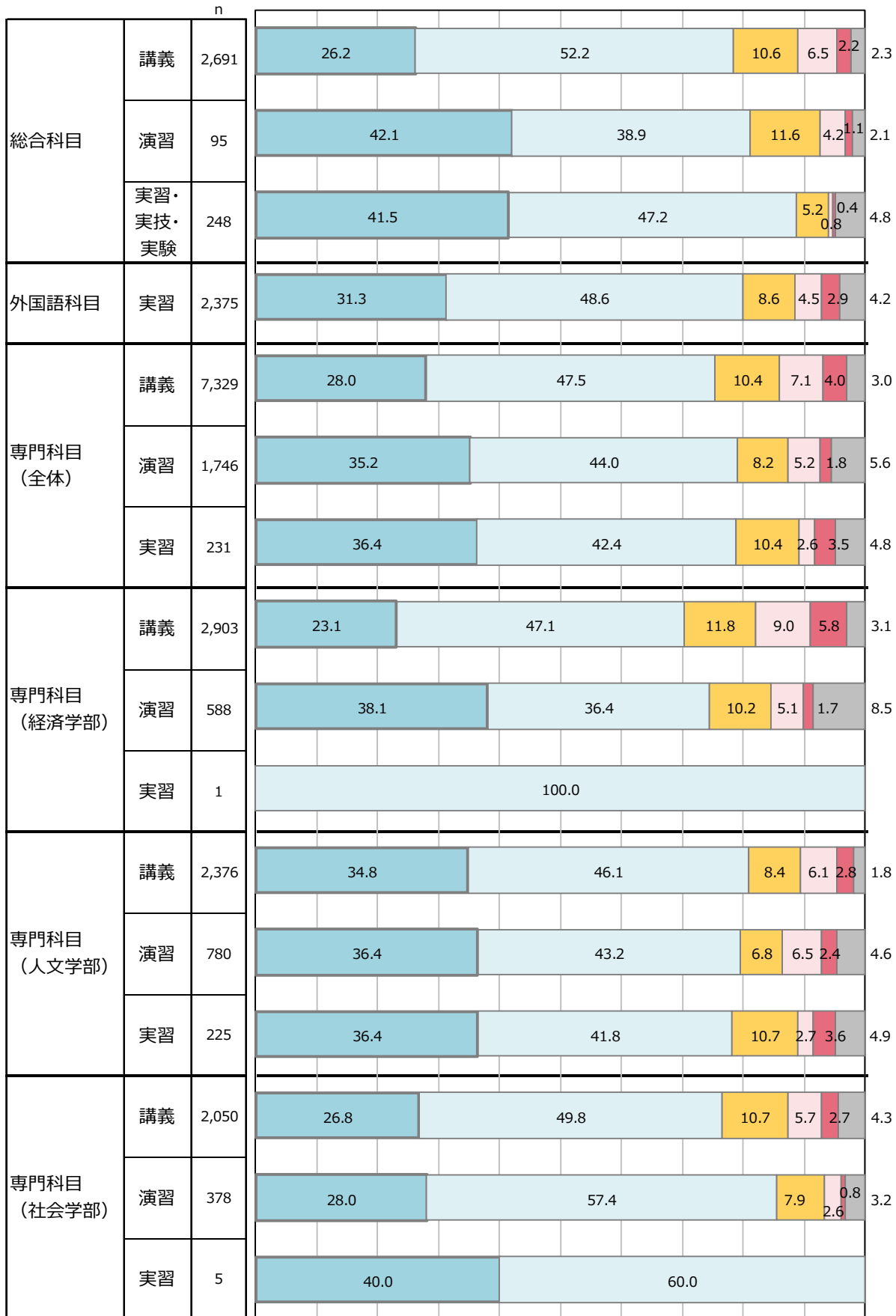
I-6. 課題に対する指示は分かりやすかったか



※0%は値ラベルの表示を省略

I-7. 課題の内容は分かりやすかったか

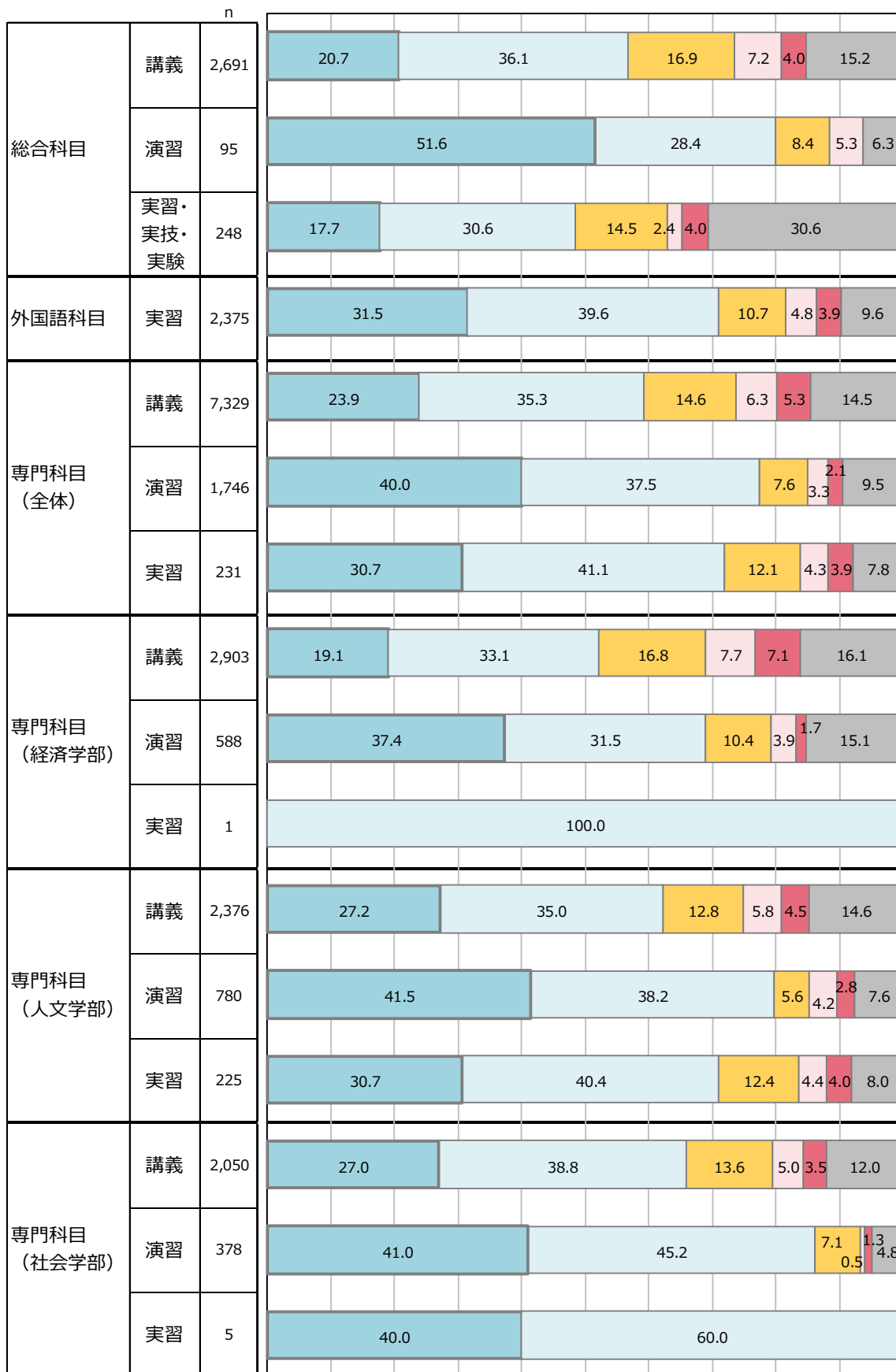
■ 強く思う ■ まあ思う ■ どちらともいえない ■ あまりそう思わない ■ 全くそう思わない ■ 該当しない
 0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%



※0%は値ラベルの表示を省略

I-8. 課題に対するフィードバックは分かりやすかったか

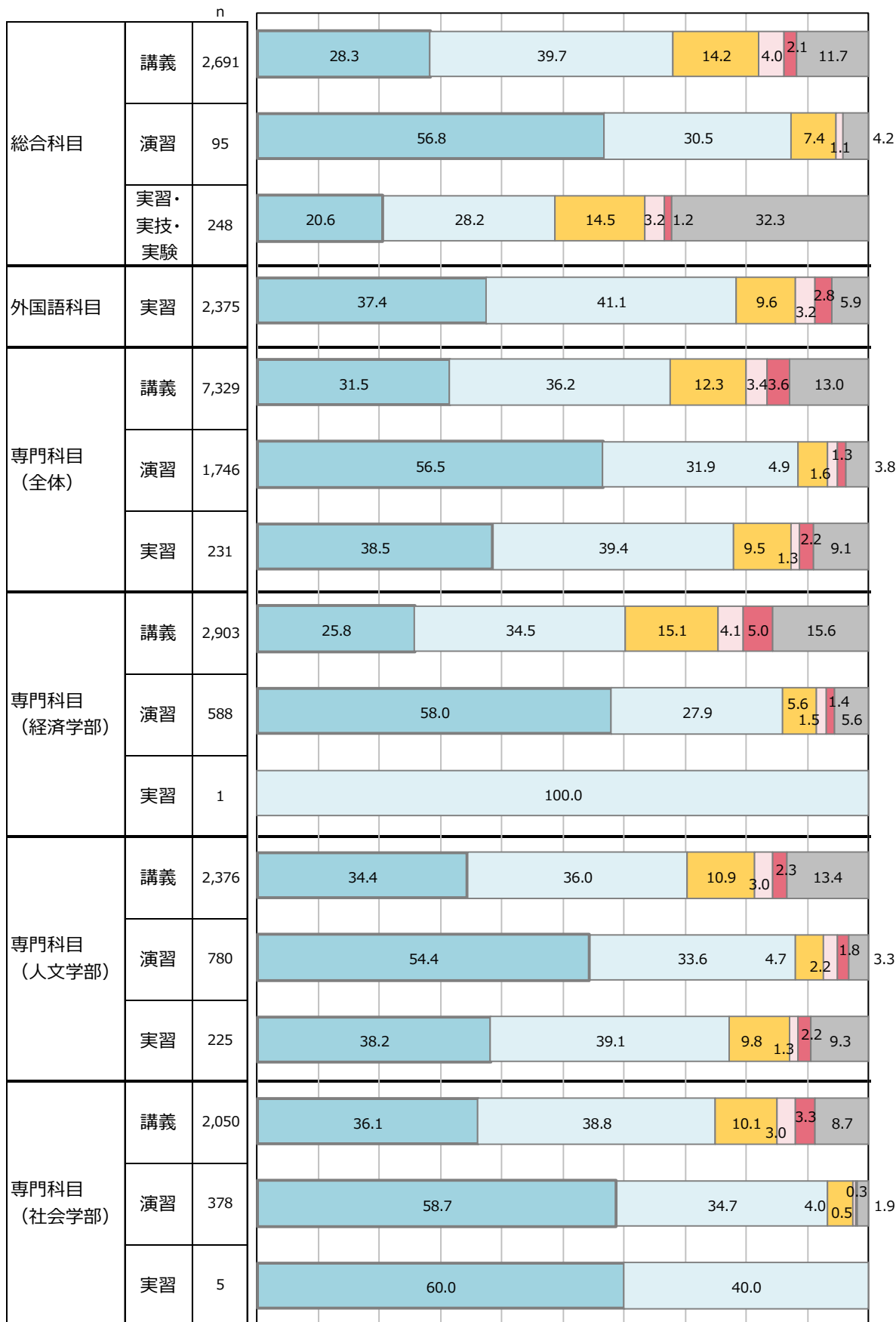
■ 強く思う ■ まあ思う ■ どちらともいえない ■ あまりそう思わない ■ 全くそう思わない ■ 該当しない
 0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%



※0%は値ラベルの表示を省略

I-9. 教員は質問や問い合わせに対して適切に対応していたか

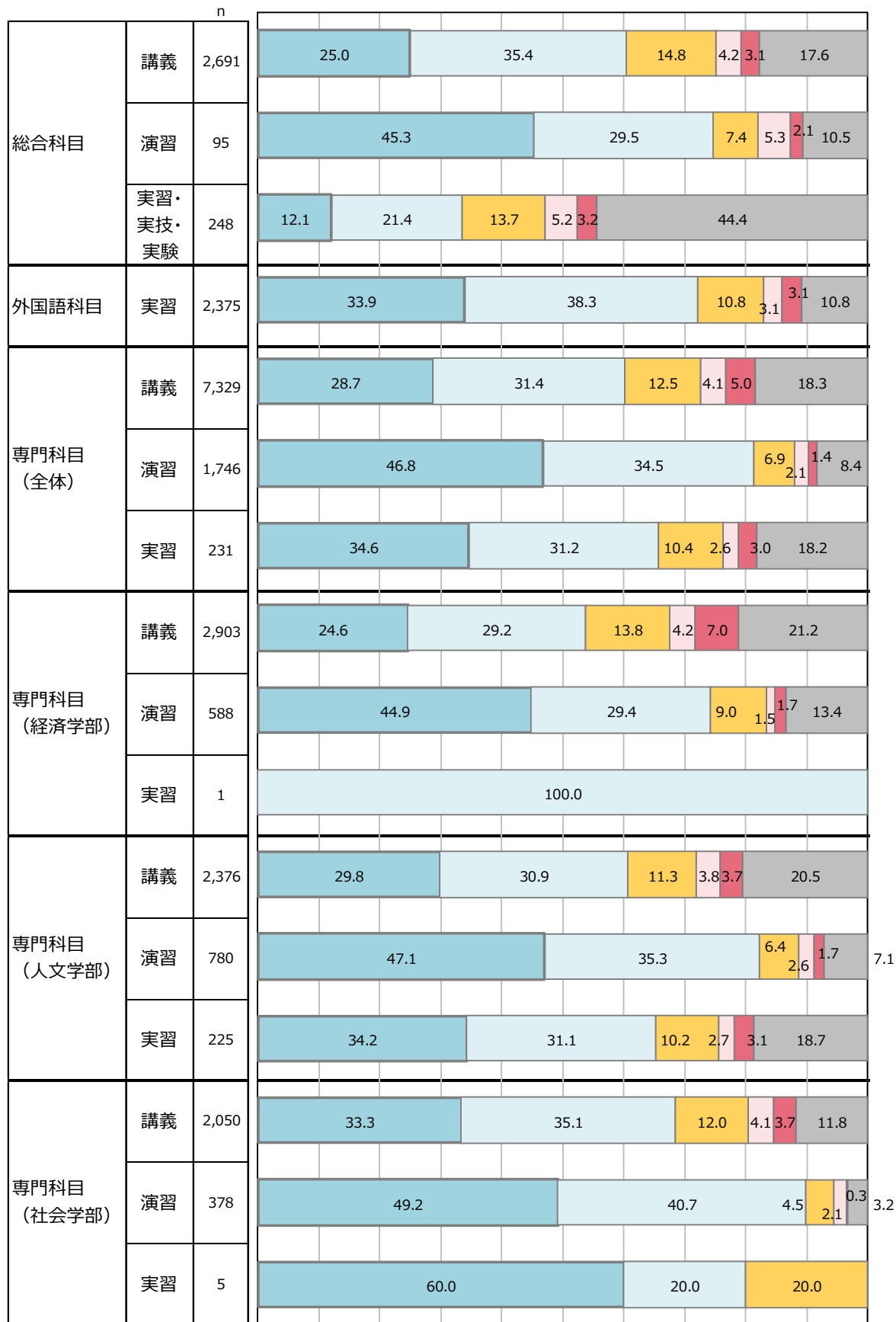
■ 強くそう思う
 ■ まあそう思う
 ■ どちらともいえない
 ■ あまりそう思わない
 ■ 全くそう思わない
 ■ 該当しない



※0%は値ラベルの表示を省略

I-10. 教員は学生からの質問やチャット等のフィードバックを取り入れながら授業を行っていたか

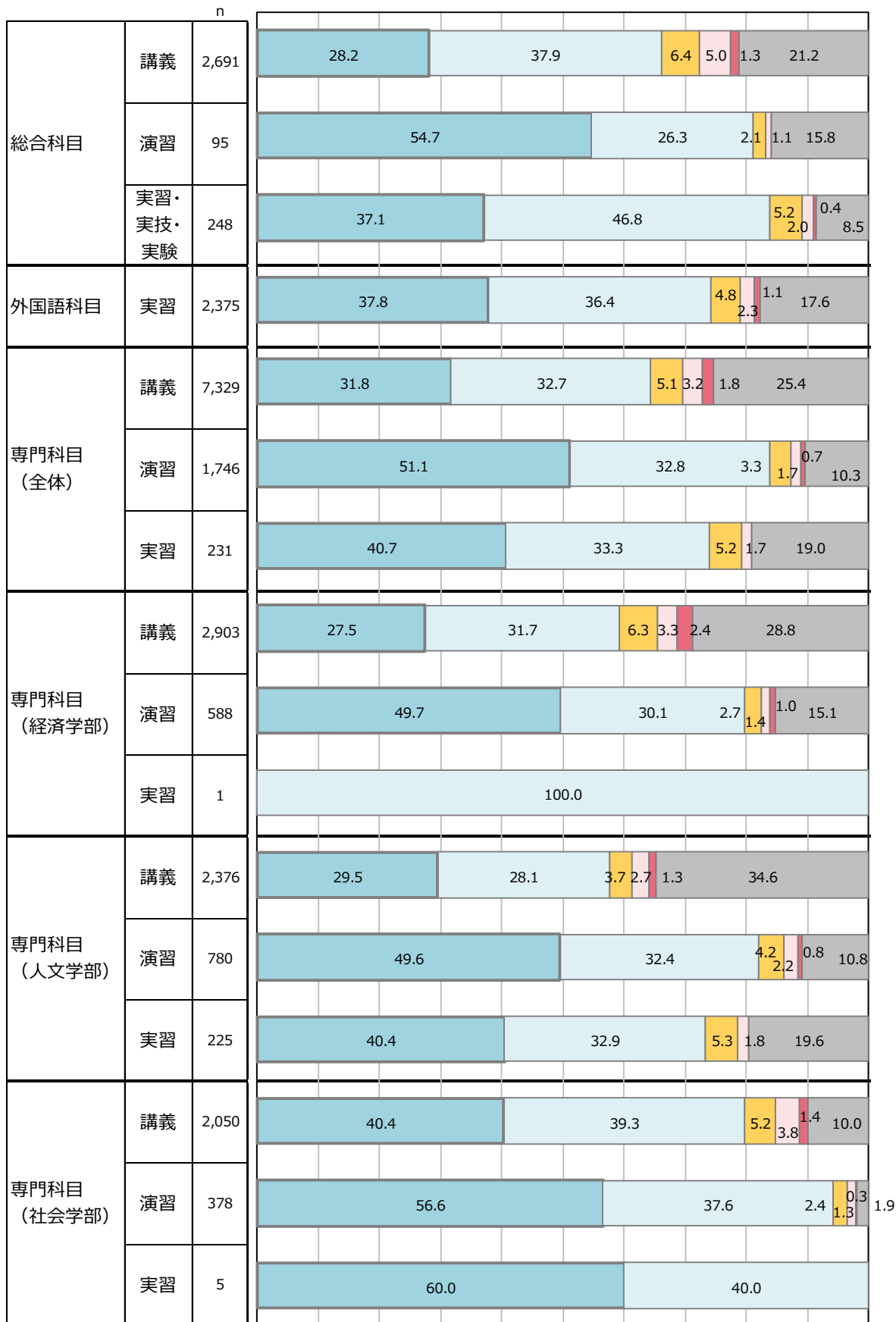
■ 強く思う ■ まあ思う ■ どちらともいえない ■ あまりそう思わない ■ 全くそう思わない ■ 該当しない
 0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%



※0%は値ラベルの表示を省略

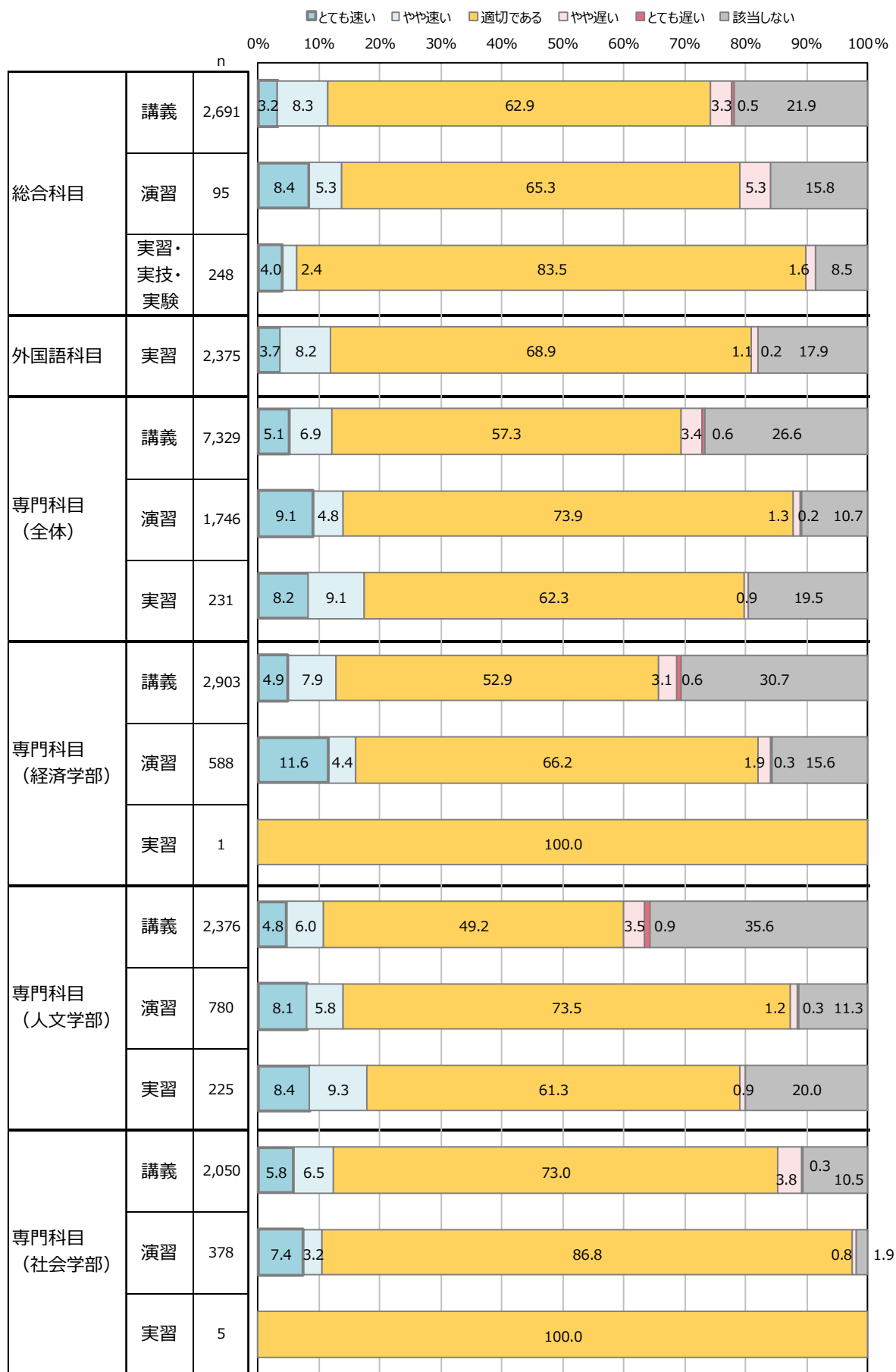
I-11. 教員の話す声は聞き取りやすかったか

■ 強く思う ■ まあ思う ■ どちらともいえない ■ あまりそう思わない ■ 全くそう思わない ■ 該当しない
 0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%



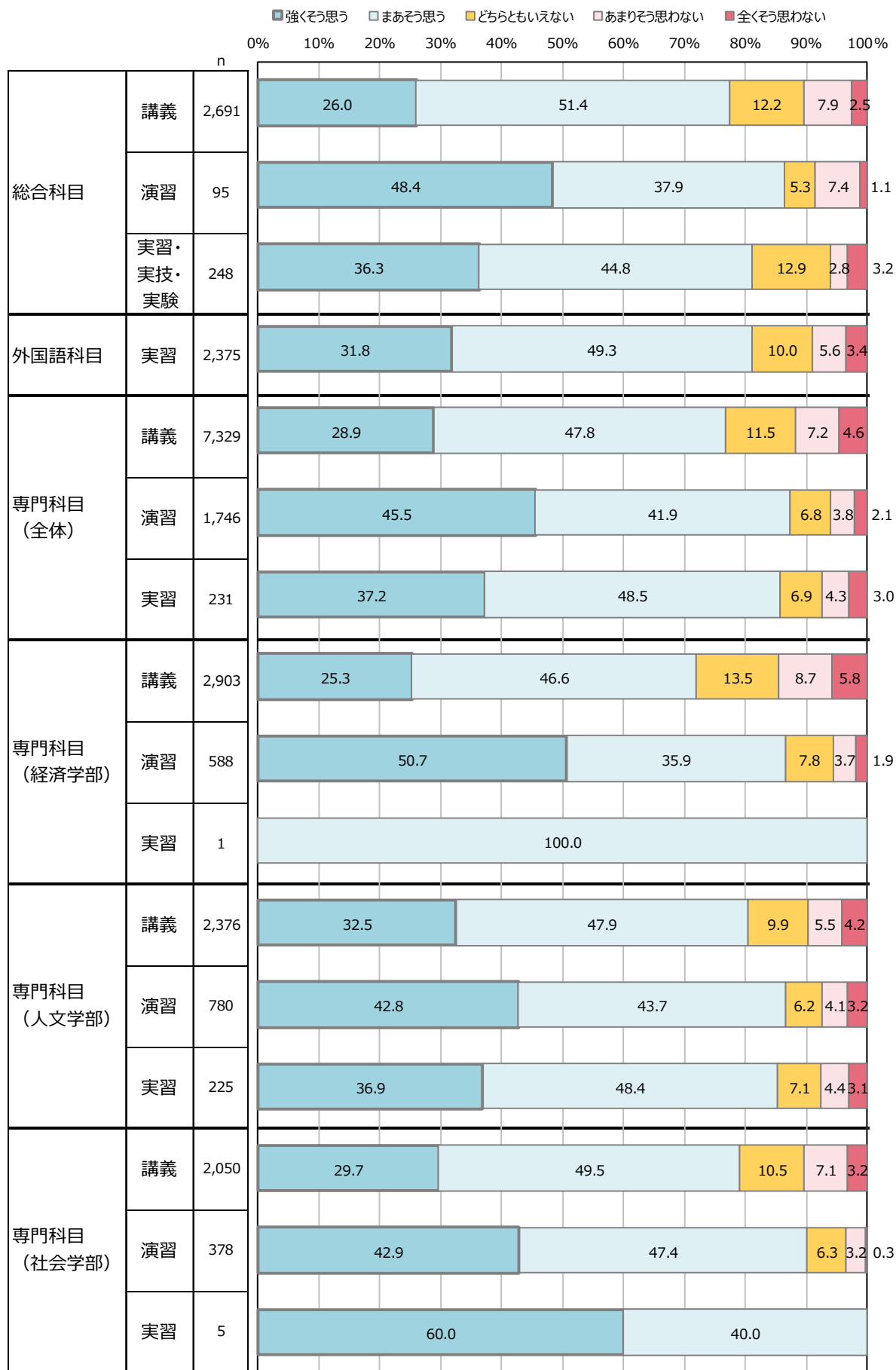
※0%は値ラベルの表示を省略

I-12. 教員の話す速度は適切だったか



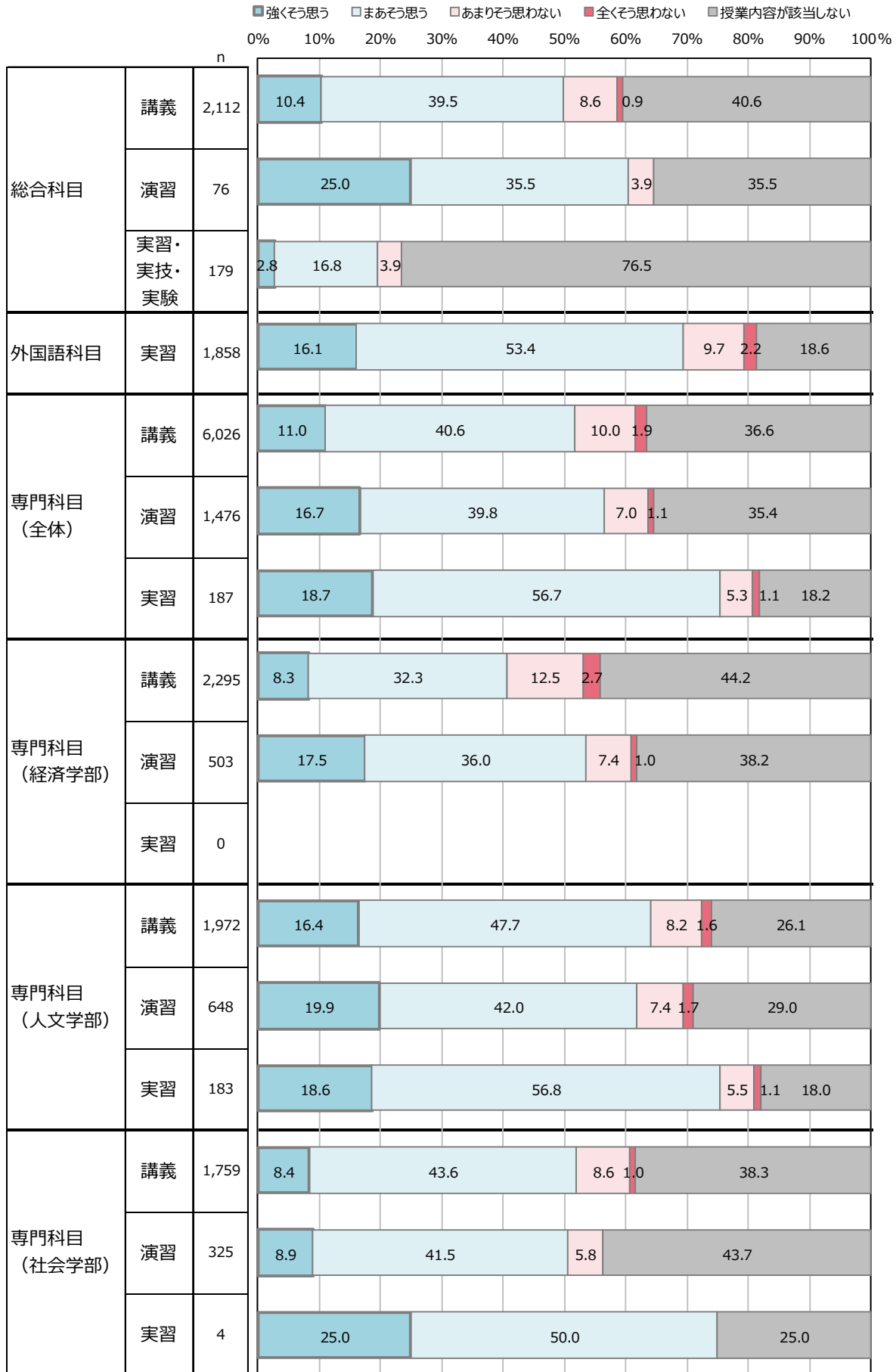
※0%は値ラベルの表示を省略

I-13. 総合的にみて、この授業は満足できたか



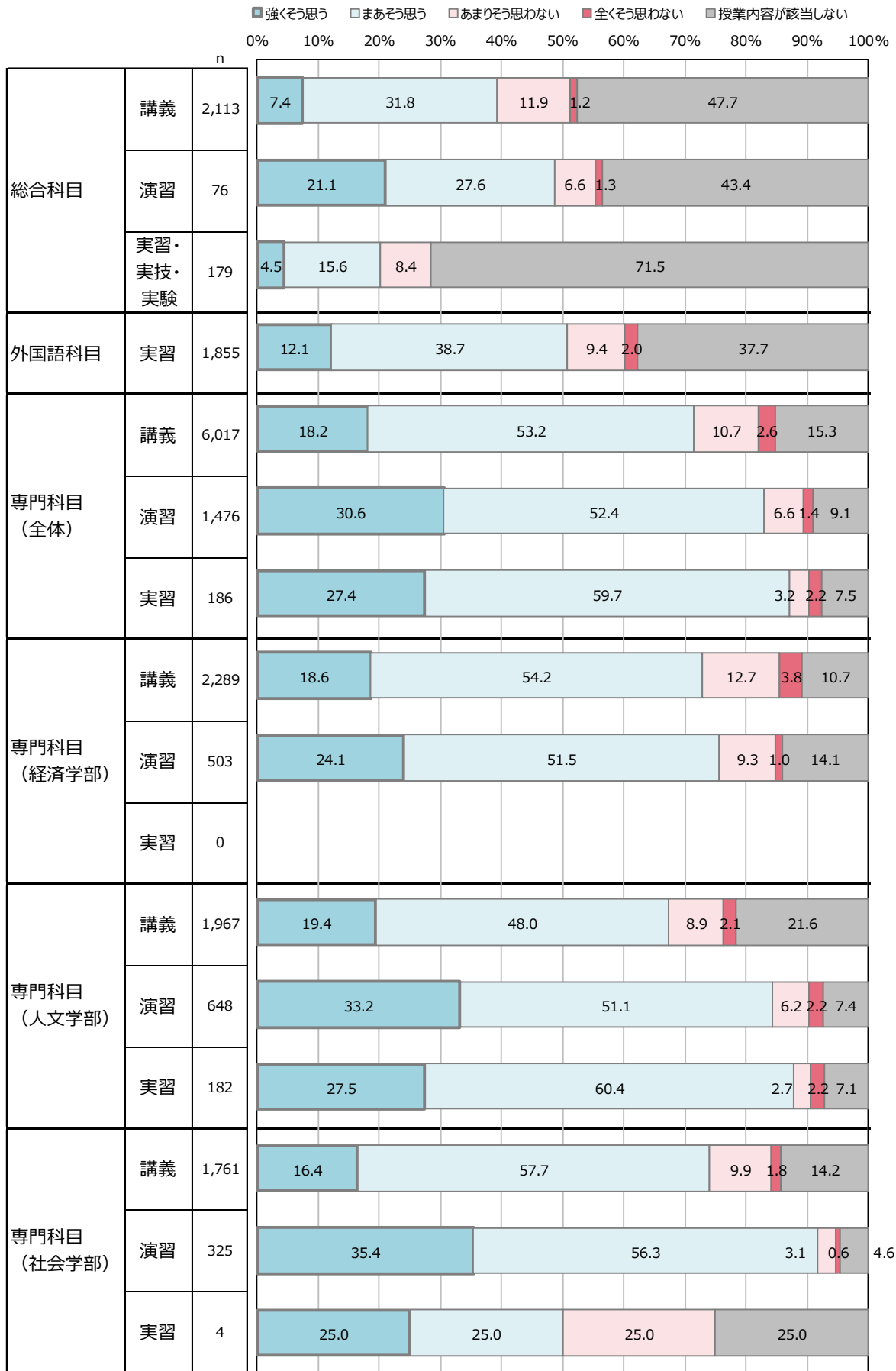
※0%は値ラベルの表示を省略

II-1. グローバル市民として生きていくのに有益な幅広い教養が身についた



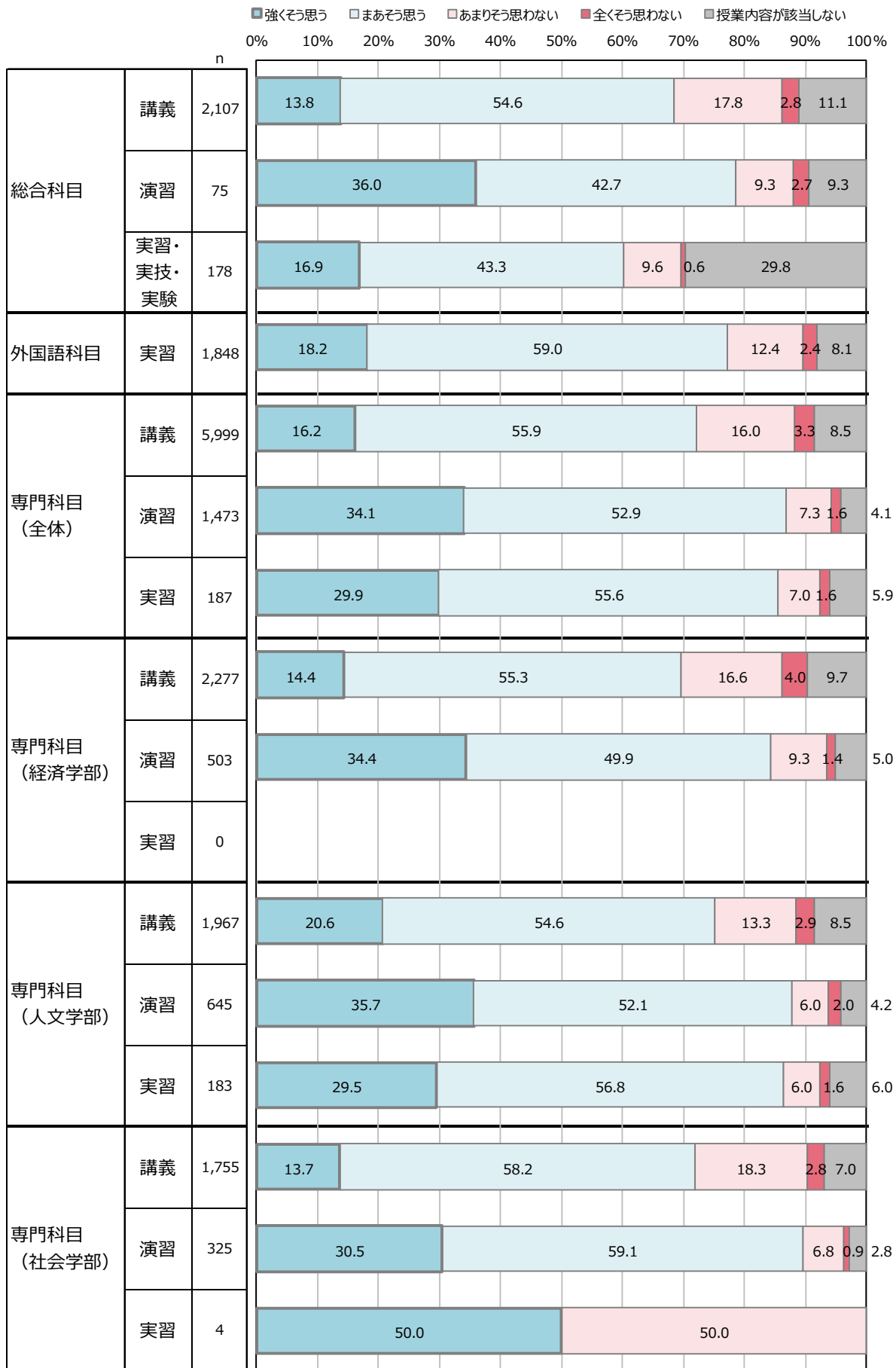
※0%は値ラベルの表示を省略

II-2. 自身の専攻分野に関する十分な知識が身についた



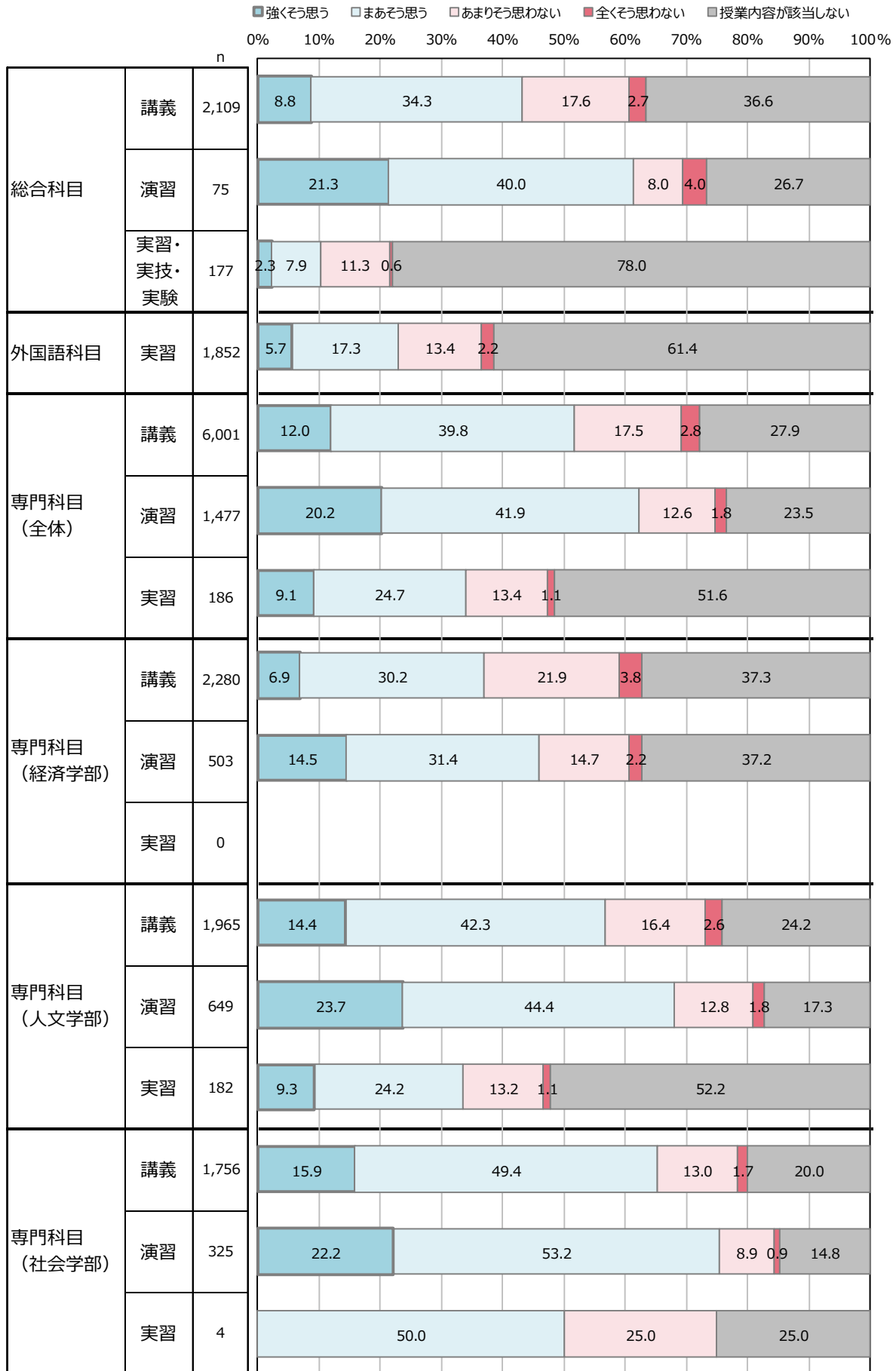
※0%は値ラベルの表示を省略

II-3. 主体的な学習態度が身についた



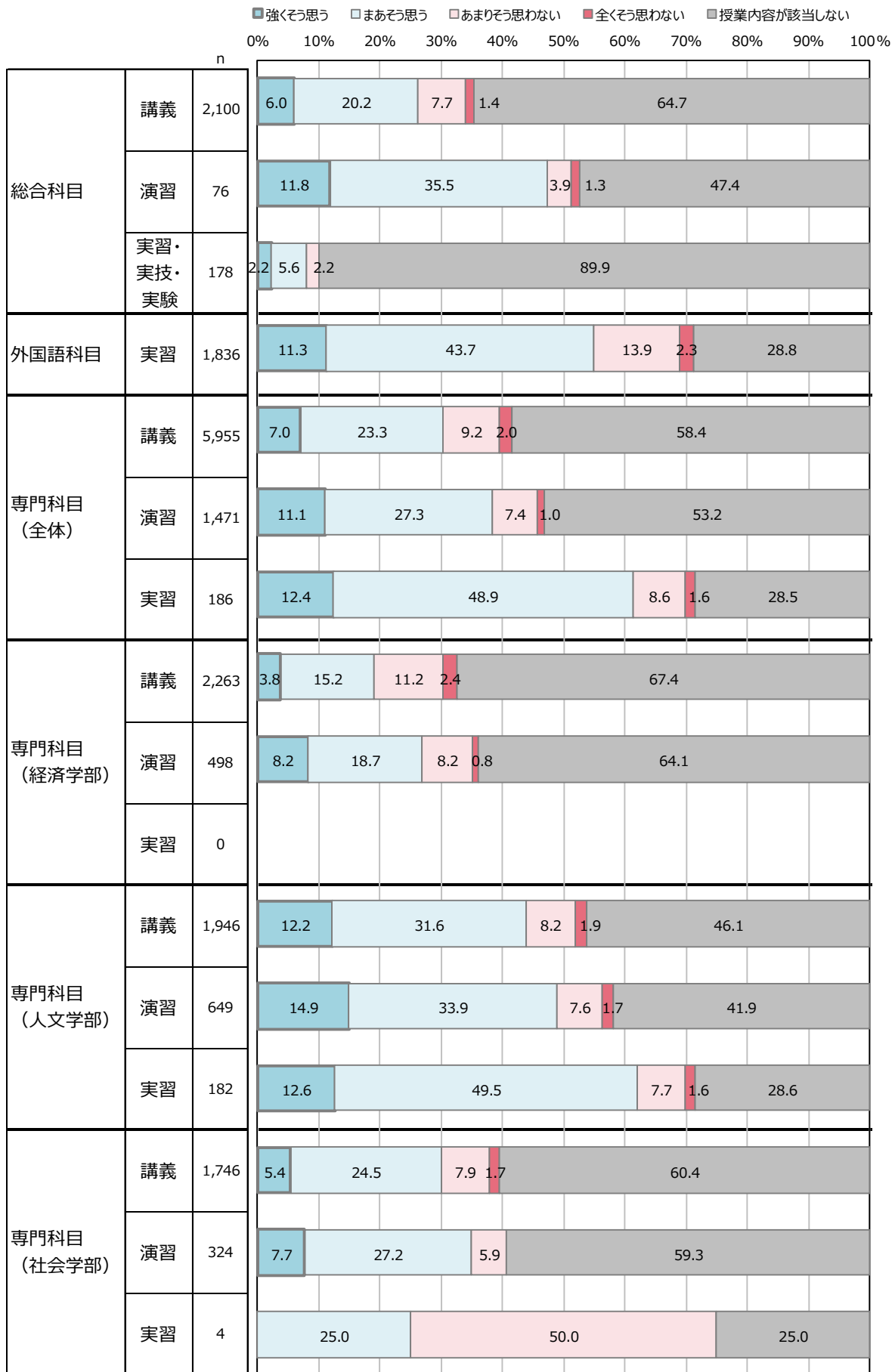
※0%は値ラベルの表示を省略

II-4. 批判的なものの見方が身についた



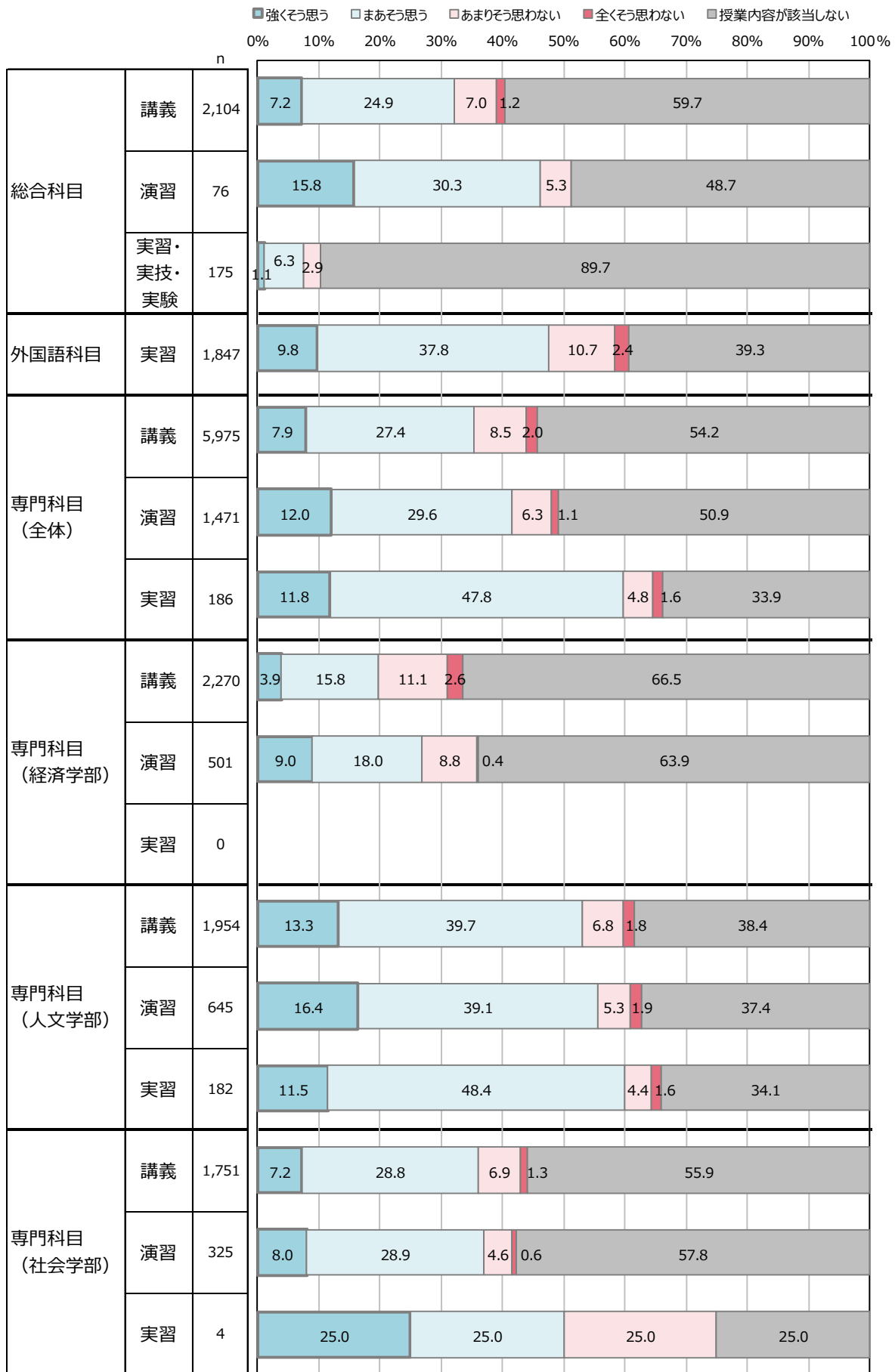
※0%は値ラベルの表示を省略

II-5. 異文化を理解し多様な他者と協働して社会に貢献できる対話力が身についた



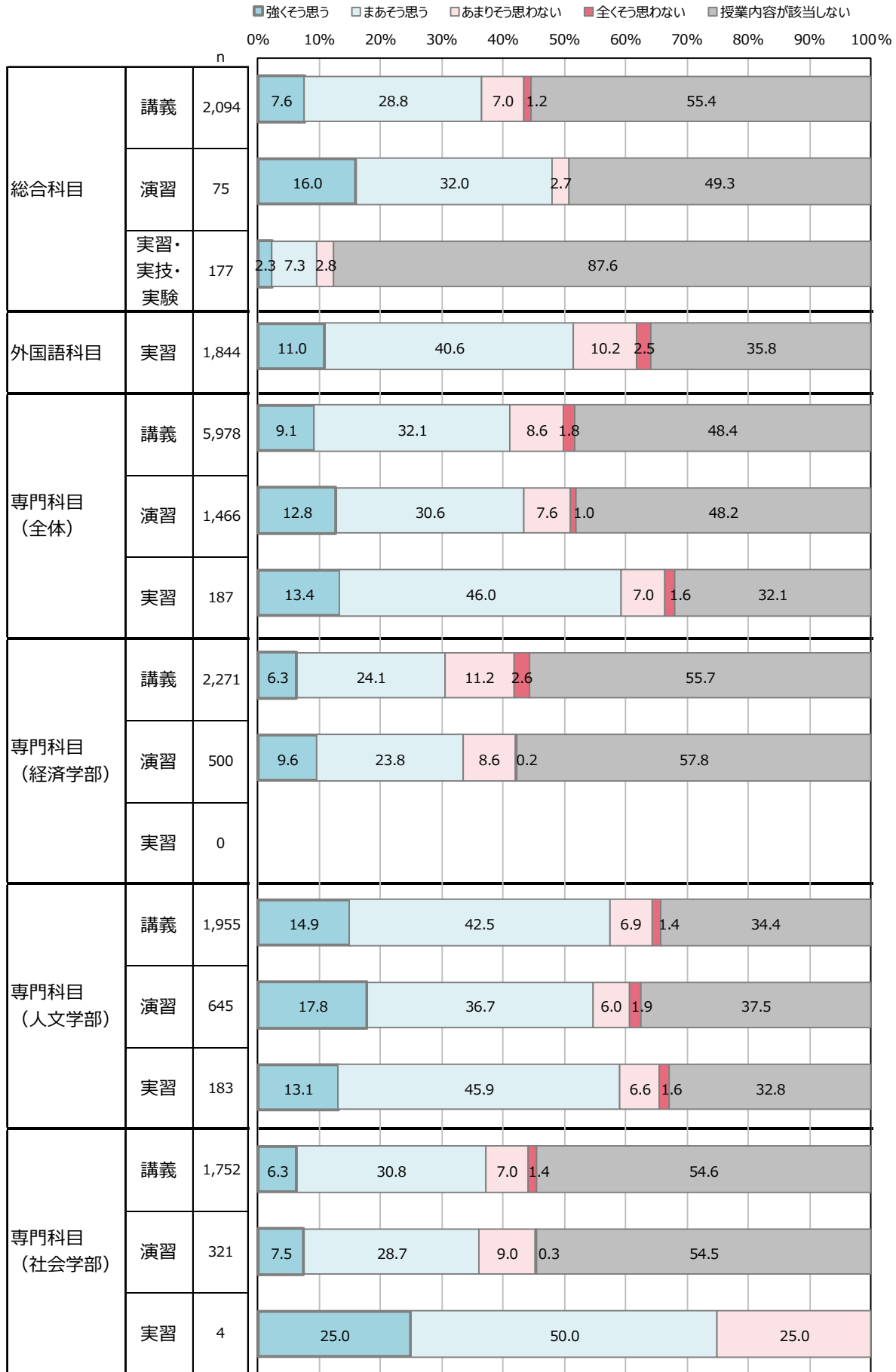
※0%は値ラベルの表示を省略

II-6. 異文化を理解し多様な他者と協働して社会に貢献できる共感が身についた



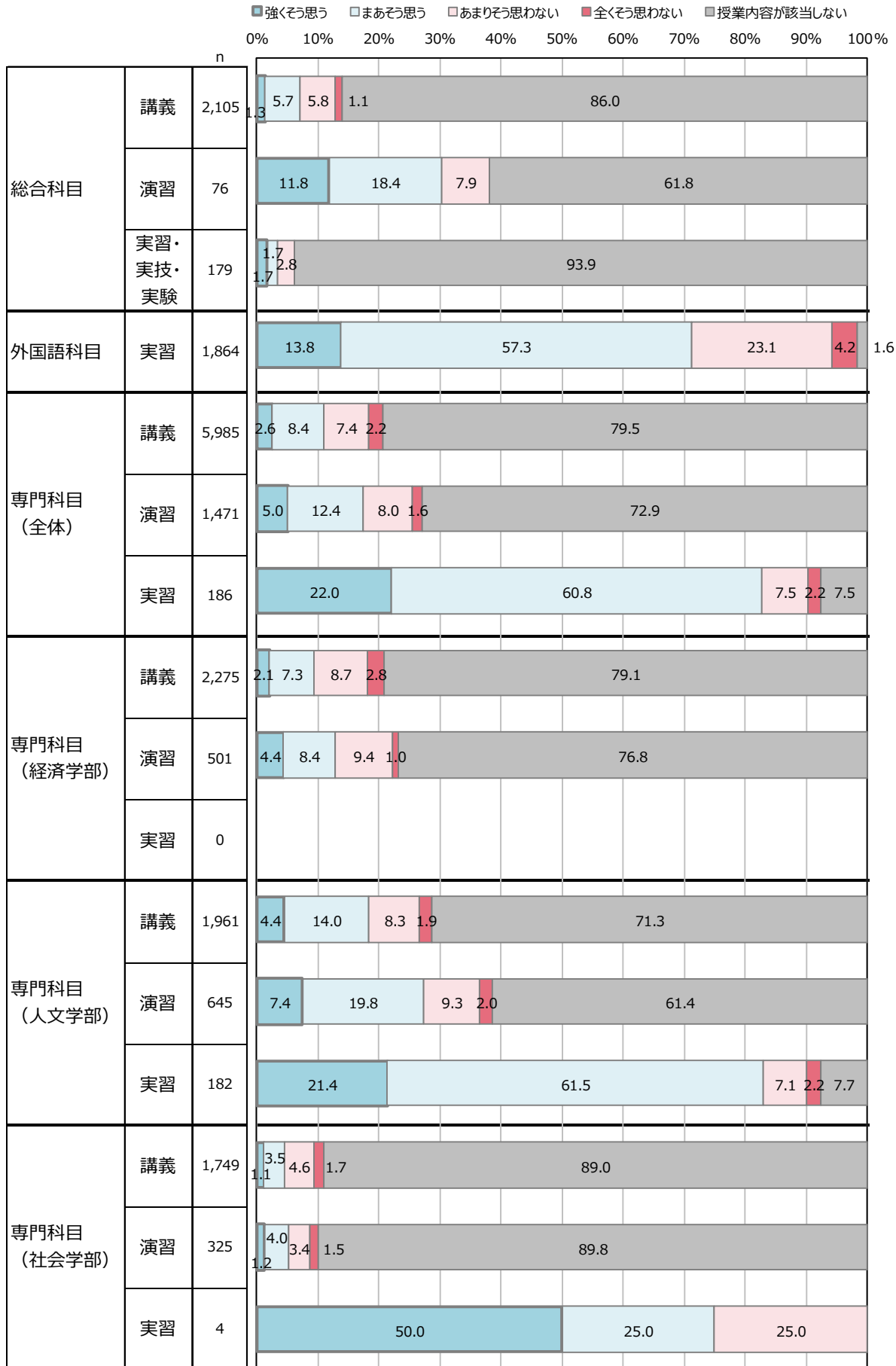
※0%は値ラベルの表示を省略

II-7. グローバルな視点で物事を考える力が身についた



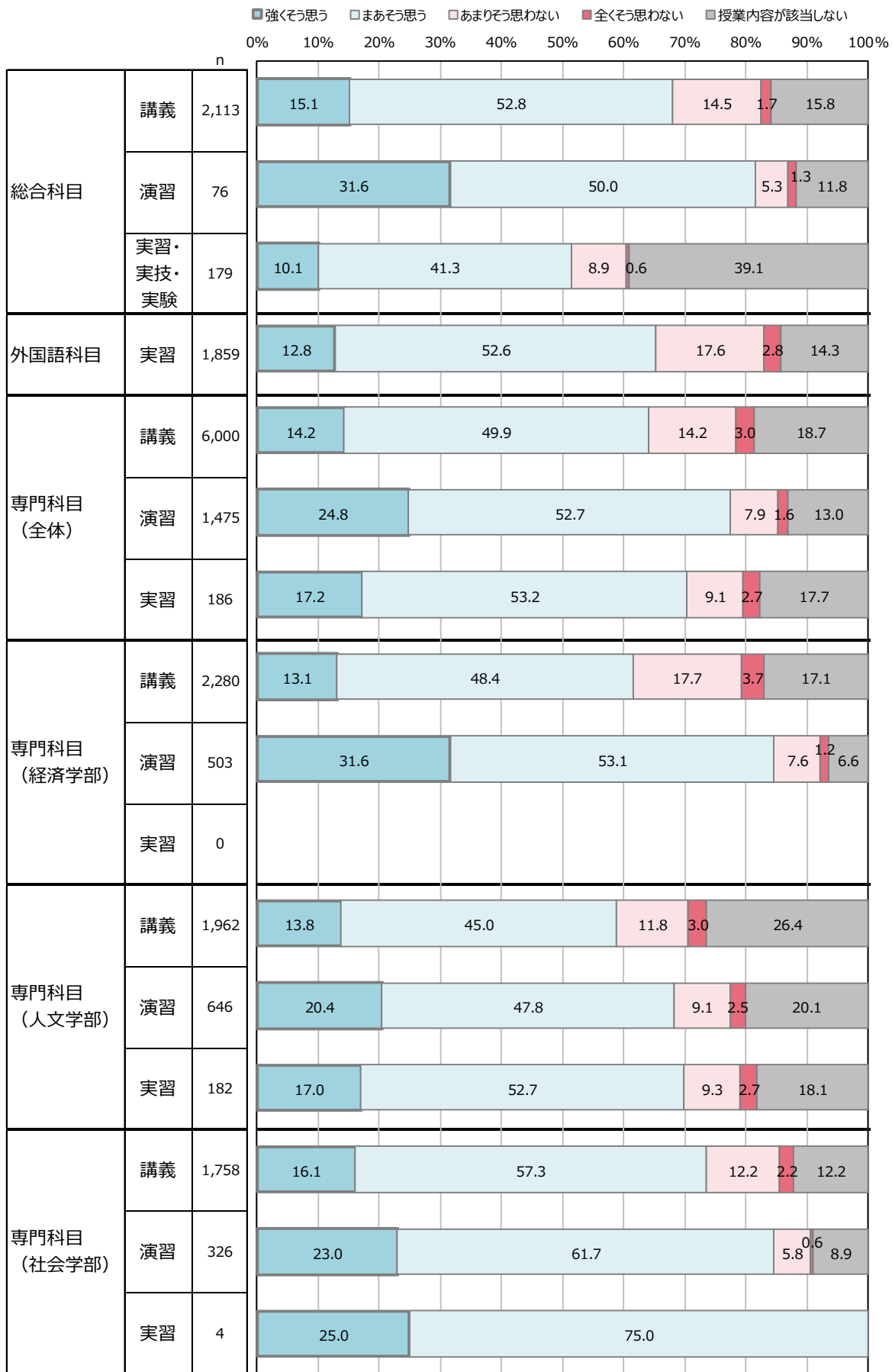
※0%は値ラベルの表示を省略

II-8. 十分な外国語運用能力が身についた



※0%は値ラベルの表示を省略

II-9. 学修の成果や学習態度を実社会で生涯をつうじて活用できる実践力が身についた



※0%は値ラベルの表示を省略

1-5. 学生が選ぶベストティーチャー賞

本年度、全学部で実施した「学生による授業評価アンケート」の結果をもとに、学生の授業満足度が高い教員を選出し顕彰を行った。

総合満足度

評価対象

1. 授業評価アンケートを実施した全授業
2. クラス規模別の回収率を算出し、平均値以上の回収率があった授業
3. 回答者数が10名以上の授業

顕彰方法

各授業の履修者数に応じて、下記の4クラスに分けて集計を行い、クラスごとに授業満足度が最上位であった教員を選出。

- ①小規模クラス1(10～29名)の部
- ②小規模クラス2(30～59名)の部
- ③中規模クラス(60名～119名)の部
- ④大規模クラス(120名以上)の部

2020年度の「学生が選ぶベストティーチャー賞」受賞者は12名が選出され、受賞者には学長より賞状と副賞が授与された。

2015年度までは、3部門・計12名のベストティーチャーを選出していたが、このベストティーチャー賞の受賞を励みにしたいという教員が多いことや、本学の「少人数教育」のメリットを生かした授業を少しでも多く顕彰したいという思いから、2016年度より部門を1つ追加した。2018年度には、「ゼミの武蔵」を代表するような授業を顕彰したいと演習科目を対象に自調自考賞を設けた。

しかしながら、2020年度については新型コロナの影響により例年と設問を大幅に変更したことや、全科目をアンケート実施対象としたこと等を踏まえ、「自調自考賞」は設けずに実施した。今後も様々な基準を設けてそれぞれの分野で活躍されている教員を表彰したいと考えている。一方で、教員には不可抗力な学習環境(履修者数と教室等)の悪影響を考慮しにくいことや試験内容や出席が甘いことがアンケートの高評価になることが課題として挙げられる。加えて、ベストティーチャー賞として選ばれた授業をFD研修会等において全学的に教職員間で情報共有するための実施方法を今後の検討課題としたい。

2020年度「学生が選ぶベストティーチャー賞」受賞者

【総合満足度】

《小規模授業の部1(10～29名)》

※敬称略、五十音順

担当者	科目名
新井 景子	英語 I [3]
玉置 佑介	メディア社会学初年次基礎ゼミ/メディア社会学基礎ゼミ
山本 零	専門ゼミナール第3部

《小規模授業の部2(30～59名)》

担当者	科目名
内田 宏美	中国語入門1
玉置 佑介	社会学概説
吉田 崇将	情報処理入門/情報処理入門I

《中規模授業の部(60～119名)》

担当者	科目名
関根 裕子	ヨーロッパの音楽文化
段 躍中	現代世界の人と生活
中村 公一	組織間関係論

《大規模授業の部(120名以上)》

担当者	科目名
小川 絵美子	多文化共生の現在
小森 真樹	アメリカ文化論1
斎藤 幸江	キャリアデザイン論B